

令和7年度ステークホルダー協議会

分科会 資料

- 分科会A p.2-18
- 分科会B p.19-32
- 分科会C p.33-46
- 分科会D p.47-66
- 分科会E p.67-85

<分科会A>

イノベーター育成の実現：
STEAM教育とSTELLAプログラム

金沢大学 副学長 尾島 恭子
学長補佐 本田 光典

全学体制でのSTEAM人材育成

事業目標

融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ 社会変革先導人材の育成



定員55名

- ① 新しい学域を設置
イノベーション & アントレプレナーシップ

融合学域 先導学類

人間社会学域

理工学域

医療保健学域

に続く、新しい学域

定員30名

- ② 新しいプログラムを開講
異分野融合・異文化協働

先導STEAM人材 育成プログラム

全学域の学生 対象の 文理融合プログラム

③ 新しいリベラルアーツ教育・STEAM教育の展開

全学土課程学生が対象

リベラルアーツ教育の大幅拡充

STEAM教育の全学必修化
共通教育GS科目第6群を新設

④ 教学マネジメントセンターを設置

教育改革の司令塔

① 新しい学域

③ リベラルアーツ教育

② 新しいプログラム

STEAM教育 を含め

教学マネジメントを運営・支援

知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP) 【R2～R6】

Q

“STEAM人材”とはどういう人材？

A

Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)といった理数系を学修する「STEM教育」にArt(アート、デザイン、リベラルアーツ)の創造的要素を加え、各領域での学修を実社会での課題解決に活かせる、俯瞰力と実践力を身につけた人材。

大学での学びと実社会での問題解決の間にあるギャップを埋めるためには、幅広い素養と広い視野をもつ人材を育成する必要があり、その考え方としてSTEAMが役立ちます。



横断的に学ぶ

■ 学修目標(5つの力(コンピテンシー))

Q

KU-STEAMを受講すると、
どんな力が身につきますか？

A

KU-STEAMでは、Society5.0社会で活躍するためには必要とされる「俯瞰力(融合した専門知)」「提案力(鋭敏な飛躍知)」「協働力」「課題発見・解決力」「挑戦・実践力」が身につくような正課授業及び正課外活動を積極的に提供します。



KU-STEAM 修了証



KU-STEAM 5つの力

俯瞰力



提案力



協働力



課題発見
・解決力



挑戦・
実践力



成果300番(2単位)

協働実践科目

実践インターンシップ/海外留学

発展200番(10単位)

ヒューマンリテラシー科目群

現代世界への歴史学的アプローチ/
グローバル社会と地域の課題 など

科学技術リテラシー科目群

統計学から未来を見る/
地球生物圏と人間 など

融合先導知実践演習

(受講者が協働する交流・融合の場)

導入100番(8単位)

データリテラシー科目群

データサイエンス基礎/アカデミックスキル など

プログラム導入科目

融合先導知概論(共通教育科目GS科目6群/国際・地域概論)



人間社会学域の学生



融合学域の学生



理工学域/
医薬保健学域の学生

授業例

100番 プログラム導入科目(融合先導知概論)

デザイン思考入門(共通教育科目GS科目6群)

近年、イノベーションを生み出すアプローチとして、デザイン思考が注目されています。デザイン思考とは、いわゆる意匠としての「デザイン」とは別もので、ユーザーや顧客の視点を起点に、課題解決案の創出と検証を繰り返し、価値あるソリューションを探索的に見いだす思考法です。

本授業では、デザイン思考のプロセスを、講義だけでなくワークショップ形式による実践を通して、問題解決や価値創造の手法の基本を身につけることを目標としています。



02 ベルソナの詳細設定-観察ワーク

名前	はんぱーぐくん
性別	男
年齢	19
住所	石川県金沢市
職業・所属	金沢大学 フロンティア
家族構成	父母单
仕事内容	大学生。授業はそれなりに受けている。たまにバイトもしている。
趣味	楽しい部屋でのんびりゲーム
性格	明るく社交的。和やかの人とでもすぐに打ち解けることができる。
人間関係	持ち前の明るさで友達はすぐにできるので人間関係は良好。でも友達を今よりたくさん増やしたい！
生活スタイル	毎日は過ごし方も。ぐうたらゲームをする。授業の難易度の存在を感じることもある。
休日の過ごし方	バイトをしてお金を稼ぐ。バイトが無い日は遊んで過ごしている。
悩んでいること	勉強のやる気が出ない。高校時代にこの大学に入るためにがんばったので大学では遊びたい。
チャレンジしたいこと	マラソン完走！体力の限界に挑戦したい。

◆「先導STEAM人材育成プログラム(KU-STEAM)」

200番・発展科目、300番・成果科目における文理融合・STEAM教育による学びを通した提案、創作を実践、力タチにすることで、その意義や価値を意識づける。



300番・正課科目における創作演劇を地域で実践し、大盛況

高大連携と人材育成工コシステム



「探究・STEAMフェスタ2024」を開催。
石川県内に留まらず、北陸3県の高等学校に拡大し、20校56名の生徒参加。
18名の金沢大学生・大学院学生との対話。高校教員、教育委員会指導主事等を含め、総勢104名参加。



金沢大学教学マネジメントセンター
および協力機関 「文理融合・
STEAM教育による人材育成工コシ
ステム」が、第1回「PLIJ STEAM・
探究グランプリ」において、グラン
プリ受賞
(2025年3月、一般社団法人 学び
のイノベーション・プラットフォーム
(PLIJ) 主催)

金沢大学STELLAプログラム

次世代科学技術チャレンジプログラム

金沢大学*STELLA*プログラム ✪

特徴

- ・小中高を通じた継続的研究
- ・児童・生徒の主体的探究
- ・科学の面白さの理解

大学院進学
→ 研究者

未来の科学技術
イノベーター育成

ジュニアドクター
育成塾

(H29-R3, R4)

(H28-R1, R2-5)



人類の未来をつくる
独創的研究者の育成
GLOBAL SCIENCE CAMPUS

実績

- ・参加者の希望研究分野が叶う総合大学
- ・多くの両事業継続修了生を輩出
- ・文科大臣賞等の各種受賞、国際会議等での発表、英語論文投稿

小中高大院混成プログラムによる未来の課題を探求・克服する科学技術イノベーターの育成

本学の強み

- ・文理融合人材の育成
- ・高大院接続教育の取組



各々が自分のあるべき姿を目指す大学

金沢大学STELLAプログラムの流れ

JD + GSC
→ 金沢大学STELLAプログラム



ジュニアコース
小中学生対象

Aステージ

Bステージ

・個人研究

- ・対面講座
- ・オンライン講座

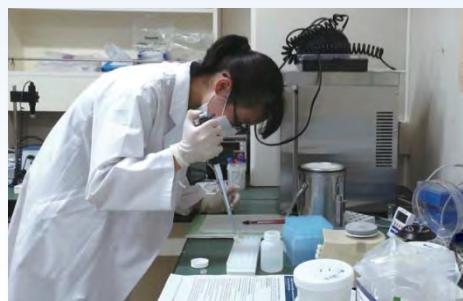


シニアコース
高校生対象

D1ステージ

Cステージ

- ・科学者基礎講座
- ・研究テーマの精緻化



D2ステージ

- ・発展的研究活動
- ・国際学会への挑戦



育てたい人材像と持つべき資質・能力

小中学生に求める3つの能力(I, II, III)を
高校生では7つの能力に発展・拡大。

小中学生育成プログラム ジュニアコース

I 知識 技能

自ら科学・技術に対して
課題意識を持ち、主体的に
実社会での問題を発見し、
分野横断的に解決を行い
探究する人材

III 主体性 探究力

II 思考力 発想力 活用力



大学院進学まで見据えた
「簡単にへこたれない
尖ったキワモノ」

III 主体的 探究

I 基礎

科学・技術を理解・駆使しながら、文系・理系といった枠にとらわれず主体的な課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく方法を探究できる人材

II 俯瞰

II 國際

II 独自の 発想

II 跳躍

高校生育成プログラム シニアコース

未来の科学技術 イノベーター



Aステージ



対象：応募者から選抜

令和6年度応募者32名から31人を選抜

実施回数：月1回程度（日曜午後）

期間：9月～翌々年2月（1.5年）

**実施場所：金沢大学とオンライン
対面講座とオンライン講座を交互に
実施。中間報告、成果発表会を実施**

運営：大学教員（4名）、コーディネータ（1名）、学生メンター（約30名）

Bステージ

募集：Aステージ修了生のうち希望者（高校生はシニアコースへ）

選抜：Aステージ研究ノート + 成果発表会 + 面接 で15名程度



成果発表会

個人研究(JD)



実施回数：月1回程度（土または日曜）

期間：4月～（最長3年）

実施場所：金沢大学とオンライン

**内容：大学院生や教員の指導のもと、
個人研究を進める**

Cステージ

対象：応募書類、体験ステージのレポート、研究提案書による選抜
令和6年度応募者41名中32人を選抜
実施回数：月2回程度(土曜か日曜)
実施場所：基本的に金沢大学
目標：学術研究に求められる素養を養い、提案した研究課題を精緻化
修了者に本学KUGS特別入試の出願資格を付与

Dステージ

D STAGE
D1ステージ

12月～翌11月
15名



対象：Cステージ受講生から選抜

実施回数：月2回程度(土曜か日曜)

実施場所：研究テーマに応じて

金沢大学，北陸先端科学技術大学院大学，

石川県立大学，石川県立看護大学，

公立小松大学，石川高専

目標：研究室での研究の実施

研究成果の発表

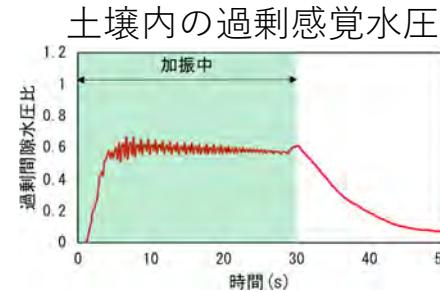
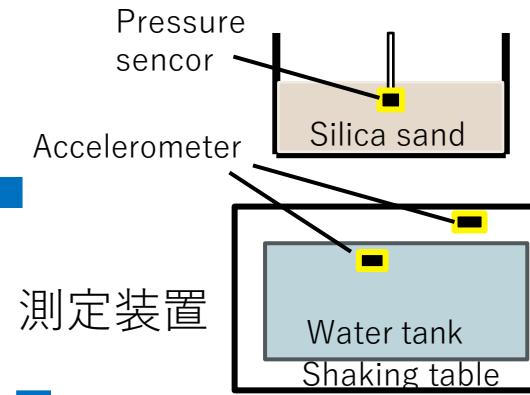
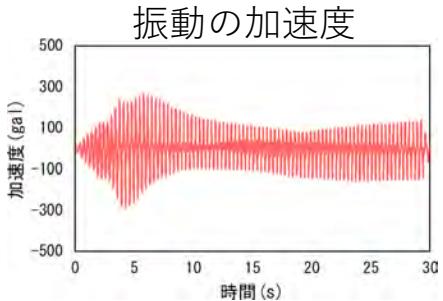
科学コンテスト参加

受講生の活動例 (Dステージ)

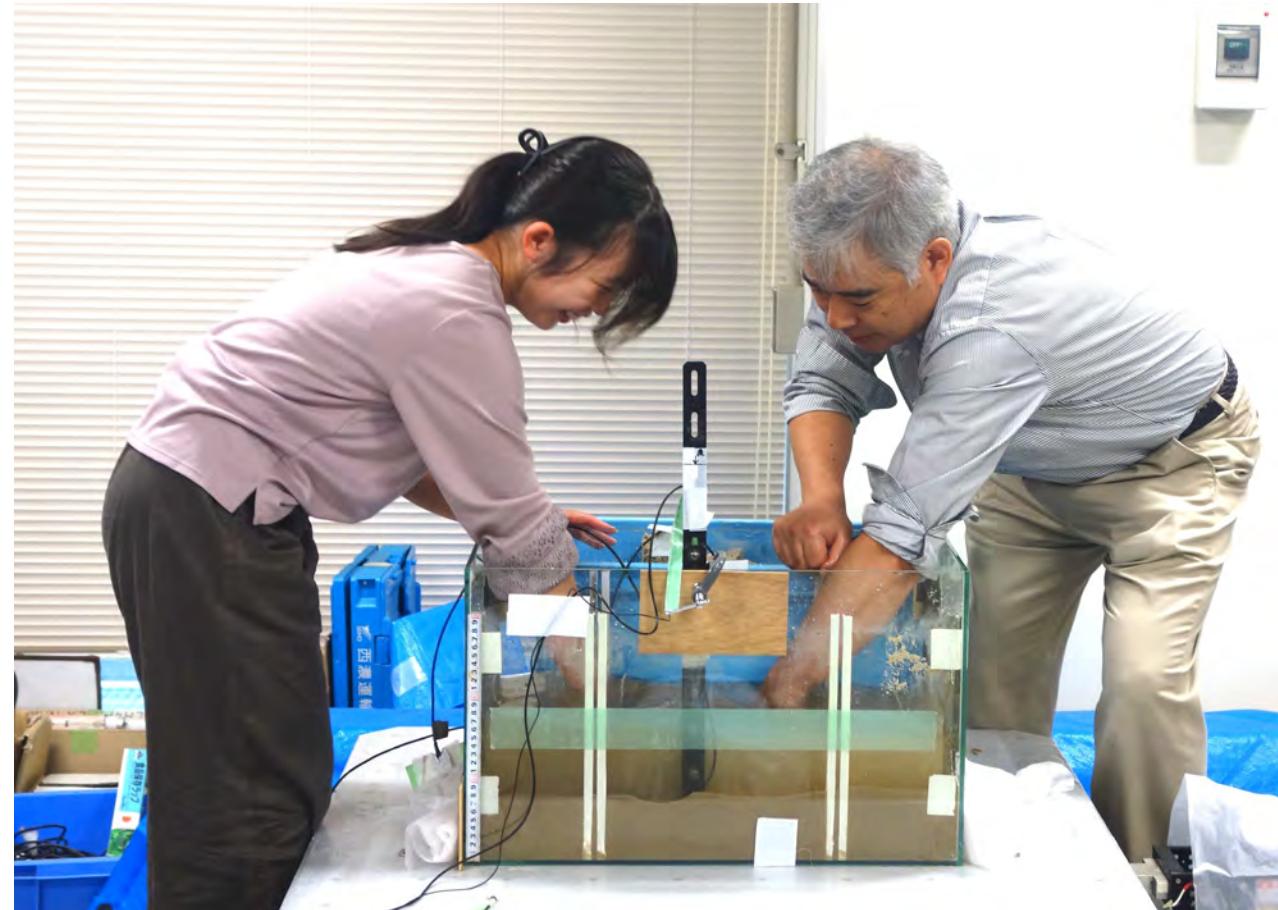
Liquefaction and prevention
液状化現象を防止するには
長野県屋代高校3年 於 金沢大学



米ぬか



土壤への「米ぬか」の添加より液状化が減少



R6受賞・参加（修了者含む）

■ 受賞

第41回エアロゾル科学・技術研究討論会
　　ベストプレゼンテーション賞…1人
日本学生科学賞石川県審査 最優秀賞…1人
いしかわ高校科学グランプリ 総合2位…2人
石川県児童・生徒科学作品コンクール
　　優秀賞…1人、優良賞…1人
白山野々市市児童生徒科学作品審査会 優秀賞…1人
射水市科学展覧会 最優秀賞…1人
富山県科学展覧会 最優秀賞、創意くふう賞…1人
とやま科学オリンピック2024大会 中学校部門
　　銀賞…1人
高峰奨励賞…1人

■ 科学コンテスト・イベント参加

国際地学オリンピック…1人
日本学生科学賞…1人

情報オリンピック 二次予選…1人
World Robot Olympiad 2024 Japan 決勝大会…1人
石川県発明くふう展…1人
石川県中学生サイエンスチャレンジ…1人
金沢市小・中学校児童生徒科学研究作品展…4人
UNU-IAS OUIK 次世代リーダープログラム…1人
数理の翼 夏季セミナー…1人
科学の甲子園 石川予選…1人
化学グランプリ…1人
サイエンスカンファレンス…2人
新潟県高等学校自然系クラブ活動報告・研究発表会…1人
第7回日本数学A-lympiad …3人

■ STELLAプログラム シニアコース選抜

Cコース …5人、D1コース …1人

受講者の実績（GSC修了者を含む）

令和6年度 主な進学先

- ・金沢大学：12名（一般前期4名、KUGS特別入試8名）
- ・名古屋大学：1名
- ・新潟大学：2名
- ・奈良女子大学：1名
- ・山梨大学：1名

第二選抜者進学先 平成28年度-令和4年度生

- ・金沢大学：25名
- ・東京大学：3名
- ・北海道大学：2名
- ・奈良女子大：1名
- ・大阪公立大：1名
- ・石川県立大学：1名
- ・京都大学：4名
- ・東北大学：2名
- ・富山大学：4名
- ・慶應義塾大学：1名
- ・公立小松大学：1名
- ・大阪大学：3名
- ・名古屋大学：1名
- ・福井大学：1名

修了生アンケートより

多様な視点から探る
STEAM教育とSTELLAプログラムの課題

分科会B：多文化共修教育と人材育成

長谷部 徳子 副学長（国際・ダイバーシティ推進担当）

谷内 通 学長補佐（企画評価・教育改革・学生募集高大院接続担当）

- 現在の大学の入学定員が維持された場合には、2040年の定員充足率は70%（令和6年11月12日開催 高等教育の在り方に関する特別部会（第12回）配付資料）
- 「知の総和」向上のため、教育の質の向上が求められている（我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）（中教審第255号）：文部科学省）
- キーワード：大学院強化，学際性・融合，多様性（留学生含む），国際化，地方創生，社会人の学びの場の拡大

「大学の国際化による ソーシャルインパクト創出支援事業」(R6~)

公募要領から抜粋

背景・目的 :

大学等が教育研究活動を行う国内外の地域における課題について、その抽出から分析、解決策の検討及び提案、社会実装に至るまでの過程において、**日本人学生と外国人学生がそれぞれの文化的多様性を活かし 共に学修することを「多文化共修」と位置付け**、これらの共修科目や科目群・コース等の開発・実施・普及を推進するために、本年度から開始します。

事業を実施する**大学等が、多文化共生社会の実現を牽引し、さらに多文化共修による教育研究活動が、国内外の課題解決策の提案や社会実装の先にある「ソーシャルインパクト」の創出につなげていくことを期待しています。**

補助金基準額 : タイプI : 100,000千円（単独・初年度・年間） 補助期間：最大6年間

採択校：北海道大学、東北大学、埼玉大学、長岡技術科学大学、筑波大学、**金沢大学**、名古屋大学、豊橋技術科学大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、関西大学、立命館アジア太平洋大学

大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業：Global Innovation Campusを実現



非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点
未来知によりイノベーションの創出と社会の発展に貢献する大学



国際頭脳循環の加速・展開

国外での連携

- ▶ 国際インターンシッププログラム開発
- ▶ 海外提携校への研究留学



海外拠点の機能強化

- ▶ 海外拠点入試

- ▶ 企業-金沢大学-海外大学のトライアングル連携



入学前から卒業・修了までの一気通貫した教育改革

留学を含めた
国際頭脳循環の加速
早期修了制度の検討
充実した地域定着支援



入学者選抜方法の抜本的改革

- ▶ 英語のみで受験可能な入試を拡大

魅力的な学修・生活環境を活用した学生募集
日本語教師養成・研修推進拠点整備事業

NanoLSIの運営の学内展開

【大学運営強化】

ELPセンターによる
事務職員高度化

外国人教員倍増



国内での連携



家族・生活支援

企業基金の設立



学生交流(派遣):主な海外派遣プログラム(短期～長期)

1. 短期研修

夏休みや春休みを利用して参加する短期の海外研修

※ 令和6年度実施の主なプログラム

①海外異文化体験・語学研修

- ファーストステッププログラム

- ・ニュージーランド(ワイカト大学)
- ・タイ・バンコク(マヒドン大学)
- ・台湾(国立陽明交通大学)

- 語学研修

英語、スペイン語、ロシア語、中国語、ドイツ語

②海外インターンシップ・専門実習

- 現地調査、支援活動

リスタートアッププログラム(ベトナム、インド)

- 現地企業、各種団体でのインターンシップ

ベルジャヤグループ(マレーシア)

海外日本語教育実習(ベトナム、インドネシア)

ほか

2. 派遣留学

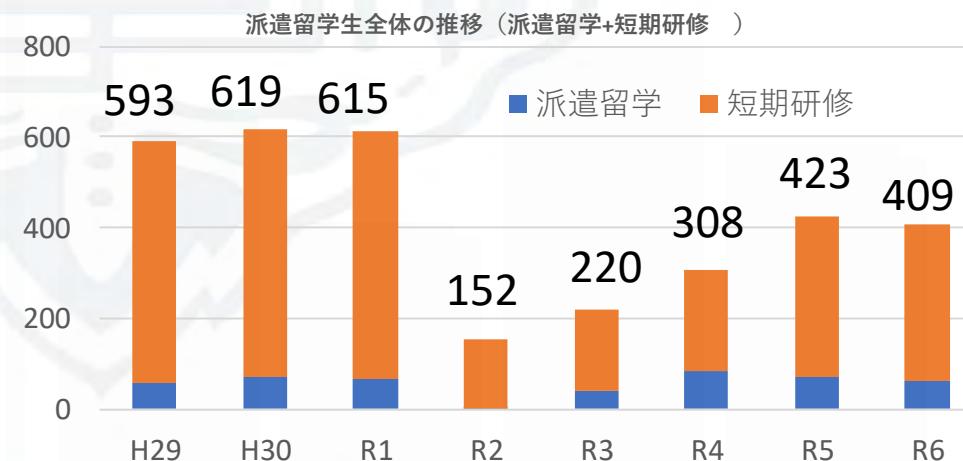
金沢大学の交流協定校に半年～1年間派遣される長期留学

学生は留学中も金沢大学へ授業料を納付し、派遣先大学への授業料は免除されます

単位互換制度を利用し、長期留学しながら4年で卒業することも可能です

派遣人数の多い協定校 (H29～R6年度累計)

順位	大学	人数
1	ゲント大学 (ベルギー)	40
2	ユパスキュラ大学 (フィンランド)	25
3	シドニー工科大学 (オーストラリア)	23
4	セントラル・ランカシャー大学 (イギリス)	22
5	レーゲンスブルク大学 (ドイツ)	19
6	デュッセルドルフ大学 (ドイツ)	18
7	カールスタード大学 (スウェーデン)	16
	ネヴァダ大学リノ校 (アメリカ)	16
9	マラヤ大学 (マレーシア)	13



R6年度学生派遣

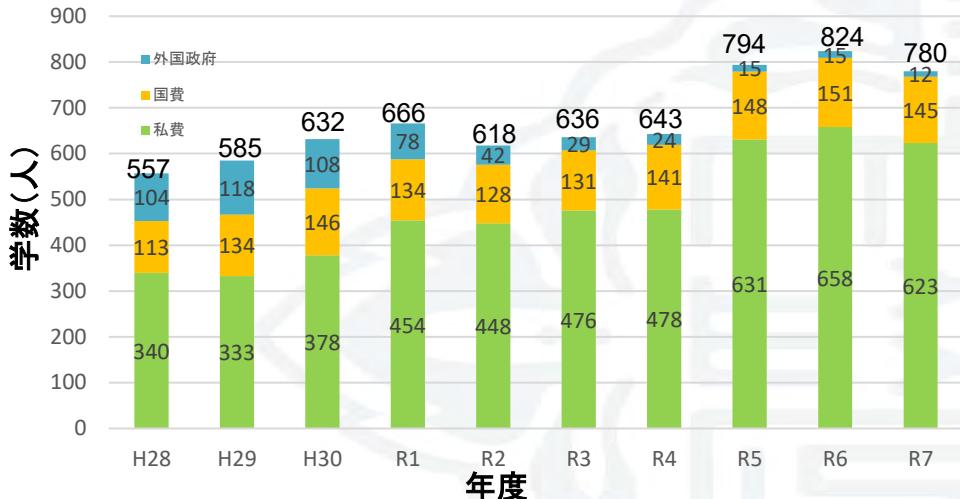
409人

派遣留学+短期研修

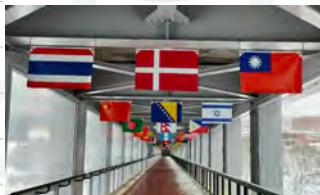
令和7年3月31日現在

外国人留学生数の受入状況

外国人留学生数の推移(各年5月1日現在)



外国人留学生数
780人
令和7年5月1日現在



通年1,087人
(令和6年度実績)

課程別内訳

学域	52人
大学院	555人
研究生・その他	217人

出身国別人数 上位5か国

中国	406人
インドネシア	100人
ベトナム	39人
タイ	33人
バングラデシュ	24人

金沢大学交換留学プログラム (KUEP : Kanazawa University Exchange Program)

- 本学と覚書を締結している協定校の学生を受け入れ、日本語科目 及び 英語による日本文化・社会体験科目などを提供する交換留学プログラムです。
- 交換留学生は、6か月または1年間、学位取得を目的としない非正規生として各部局に在籍します。

受入実績:

- 令和7年 4月受入 77名(人社系 66名、融合・理工・医薬保健系 11名)
- 令和7年 10月受入 94名(人社系 80名、融合・理工・医薬保健系 14名)



日本人学生の国際頭脳循環を促す仕組みの構築

金沢大学生の誰もが気軽に海外留学に行ける環境を構築します。

学生派遣・受入、博士課程進学、国際頭脳循環の加速

・カリキュラム改革により、留学の推進を強化

融合学域先導学類（2021年設置・入学定員55人）では必須化

・充実した経済的支援

JASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度特別枠（要件あり）

・留学を含めて標準修業年限で修了できる制度の検討

例) DDPのコチュテル型への転換

・大学院進学を前提とした中期（3ヶ月以上）留学の促進

→ 人間社会学域・理工学域・医薬保健学域

・大学院進学後の留学の促進

→ 医薬保健学域の全学類

日本語能力を持つ外国人生徒の受け入れ、大学院での外国人留学生受け入れ及び日本人学生の留学促進等は他学域以上に加速

→ 博士後期課程・博士課程への進学を後押し

博士号を取得したアカデミア志望の優秀な人材にはプロミシングリサーチャーのポストを用意

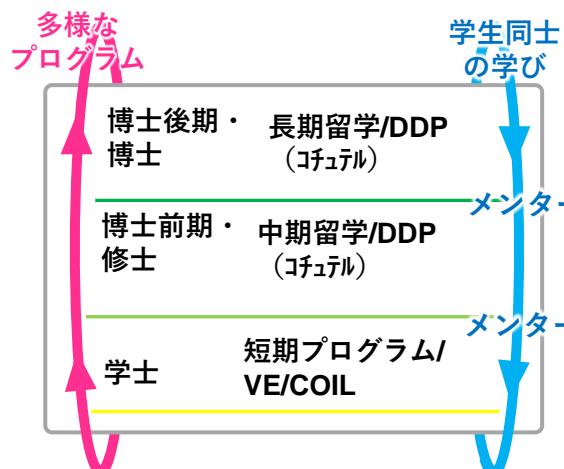
学士－修士－博士の一貫した頭脳循環環境を構築し、国際的人材として育成します。

留学希望学生に対する徹底した英語研修

- ・ ELP (English Language Programs)
センターの英語研修



留学経験者が後輩のメンターとしてアドバイスすることで、学生同士が学び、留学があたり前のキャンパスに



大学コンソーシアム石川との連携による留学推進

留学生に対する多様なキャリアパスの構築支援

学生に応じた多様なキャリアパスの構築を支援します。

地域と連携した充実した地域定着支援



留学生就職促進教育プログラム
に認定（信州大学、2021年）

- ・ビジネス日本語教育
- ・キャリア教育
- ・インターンシップ教育

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計/平均
本学の留学生卒業・修了者数	137	183	156	167	178	821
Link KAGAYAKI受講者数	29	104	79	91	48	351
受講者のうち日本就職者数	14	29	23	26	19	111
受講者の日本就職率(%)	48.3	27.9	29.1	28.6	39.6	31.6

北陸高度外国人材活躍地域コンソーシアム（2022年～）
(経済産業省)

全国6拠点のうちのひとつ



参画企業等：243社（2024年11月現在）

卒業者・修了者が 海外への/本学への橋渡し人材として協力

- ・先輩として後輩の育成に関与
- ・留学相談・キャリア相談等
- ・卒業生・修了生と金沢大学のつながりを強化
- ・インターンシップや共同研究の送り先としても機能

コラボラティブ・プロフェッサー（2015年設置）：
2024年11月現在：35国・地域、194名

本学の卒業者・修了者で海外の高等教育機関等の教員又
は研究職にある者

家族・子弟を対象とした 日本語教育と生活支援の充実

地域と一体となった生活支援

文化庁 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業との連携
2023年採択 全国8つの実施団体のうちの一つ（中部ブロック）

本学附属小学校 日本語適応教室「さくら」を開設

留学生や橋渡し人材の一層の拡大とともに、キャリアパス構築を進めます。

北陸地域全体の国際化を牽引

金沢大学は様々なセクターと連携して北陸地域全体の国際化を牽引します。



県内高等教育機関への展開
(FDによるGPの共有)

UC 大学コンソーシアム石川
北陸地区国立大学連合協議会

多文化共修の地域への普及

地域と大学それぞれが歴史ある交流を継続
金沢市-米国バッファロー市（姉妹都市1962～）
金沢大学-SUNY Buffalo（大学間交流協定1974年～）

地域の大学、企業、自治体等と密接な連携による、街と一緒にした多文化社会の実現を推進します。9



多文化共修により地域・社会課題を解決し、
未来知により新たな価値を絶えず生み出す
Global Innovation Campus



留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト
Link KAGAYAKI

北陸地域の産学官金と連携
(インターンシップ協力、GPの共有)

北陸未来共創フォーラム (2021年～)
産学官金プラットフォーム for Innovation challenge

北陸高度外国人材活躍地域
コンソーシアム（経済産業省）(2022年～)

優秀な人材の受入・定着促進

日本語教育の必要な児童生徒の教育サポート
家族も包括した定着支援

日本語教師養成・
研修推進拠点整備事業

金沢大学独自のカリキュラムによる多文化共修教育

金沢大学の特色である分野横断型のGS科目を活用した一貫性のある多文化共修を実現します。

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)

- ・社会の一員として自己の使命を国際社会で積極的に果たす
 - ・知識基盤社会の中で中核的なリーダーとなる
 - ・常に恐れることなく現場の困難に立ち向かえる能力・体力・人間力を兼ね備える
-
- ・6つのスタンダードを設定し、それぞれに対応した科目をGS科目として開講
 - ・学士課程共通教育だけではなく、学域、大学院においても学域GS科目、大学院GS科目として開講

*この地域で学ぶこと
に意義があるテーマに
ついて学ぶプログラム



学士～博士前期・修士課程までの一貫したGS科目という分野横断型の科目を柱に、
全学に多文化共修を展開します。

「KUGS実践」 2026年度新規開講

- 1年次・全学生必修
- 使用言語は原則として英語

- 1.「正解のない議論を生産的に行う」スキルを修得することを目指す。
 - 2.議論の結果がテーマ提供者である学外の団体等にフィードバックされる経験を通じて、学生個人は決して大学内に閉じておらず社会に開かれた発信者たり得ることを体感する
 - 3.このような経験を通じて、学生が大学初年次に学問と文化の間口を広げる
-
- 学問と実社会の問題の関連を考える
 - 地方自治体、民間企業、NPO・NGO、国際機関等と協働
 - （留学生を含む）受講者の視点の多様性を問題の分析や課題解決に活かす
 - 英語による授業（AI等の最新機器の活用可）
 - 各週グループ編成を変え、異なるテーマについて議論

テーマ（一部）	連携先
災害医療	石川県の医師会、行政担当者、医療関係者
グローバリズムと森林保護	インドネシアの環境NGO
異文化のレンズを通して日本を見る	インドのNPO
登半島地震とデータベースの活用	防災科学研究所
石川県における外国人住民の移住と多文化共生	外国人技能実習制度の監理団体

協力団体からの課題提供（ビデオメッセージ等）

※日本語の場合は英語テロップ



グループでの議論（英語での議論を原則とするが、AI翻訳の利用も可とする）



自分の意見を述べることを最重要視

グループでの議論の結果を発表

多文化共修特設プログラム:

- ・ 地域の歴史と文化、防災と復興について留学生と日本人学生がそれぞれの視点からともに学ぶ
- ・ 関連科目群の履修でプログラム修了認定

防災・復興プログラム

令和6年1月に発生した能登半島地震からの復旧・復興に向け、被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興に寄与する人材養成が急務となっています。また、自然災害が頻発する我が国や世界の被災地の課題を踏まえ、自身の専門分野での学修成果を基に、自然災害に対して正しい理解をもち、自らの的確な判断の下で防災・減災に対応できる人材を継続的に我が国や世界に輩出していくことが重要です。これらのことから、災害、復旧・復興、防災・減災に関する科学的知見の学修により身につけた科学的、倫理的及び実証的な力をもって、被災地の復旧・復興に貢献し、広く我が国や世界の防災・減災に活躍できる高度人材の育成を目的として「防災・復興人材特別プログラム」を設置しました。

多文化ダイナミクスプログラム

石川県や金沢市は江戸時代から続く武家文化が現代の生活にも密接に関わっている地域です。また、世界農業遺産やユネスコ世界ジオパークなど豊かな自然に恵まれた地域でもあります。しかし、こうした地域は深刻な高齢化が課題であり、文化や自然をいかに後世に残していくか、またそれらを活用していくかに産業として成立させていくか、という課題があります。他方でオーバーツーリズムの問題などの課題も顕在化してきています。文化を保護・保全すべきものだけではなく、それを活用した産業・地域振興の資源として活用しながら、地域の健全な発展に資する活用方策の提案を目指します。

意見交換

1. 多文化共生社会で活躍できる人材を育成するため
に金沢大学で行うべき教育
2. 世界中から留学生が集まる大学にするために取り組
むべきこと
3. 日本人学生の海外留学を促すためのマインドの形
成・経済的支援の方策
4. 金沢大学を卒業・修了した外国人留学生が日本や
北陸地域に定着するために必要な条件
5. その他、関連する話題についてステークホルダーの皆
様から金沢大学に対する質問・意見・要望





分科会テーマC

金沢大学が進める世界トップレベル研究・ 产学連携の進捗

1. 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS)の概要
2. 未来知実証センターについて
3. 独創的な世界トップレベルの研究
 - ・ダイヤモンド研究センター
 - ・サピエンス進化医学研究センター
 - ・疾患に潜む免疫と骨の意外な関係
4. 大学院教育について
 - ・未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業
 - ・医学系研究支援プログラム

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）での金沢大学の構想

10年後のビジョン「非連續なイノベーションを創出し続ける世界的拠点」に向けて

金沢大学の未来ビジョン



「未来知」により社会に貢献

10年後 ▶ 非連續なイノベーションを創出し続ける

▶ 北陸地域がスタートアップ先進地となる

▶ 文理医融合の世界的研究拠点群を形成している

5年後 ▶ 非連續なイノベーションを創出している

基礎研究・
融合研究の高度化

社会実装の
最速化

アクション①
多様化

アクション②
加速化

アクション③
世界標準

アクション④
持続化

基礎研究・
融合研究の
高度化

社会実装
の最速化

マネジメント
の強化

▶国際頭脳循環
▶研究支援体制の充実

▶社会とのインターフェイス
機能の強化

▶経営戦略マネジメント
機能の強化

▶出口支援の強化

▶革新的な融合研究の創出
▶卓越領域增幅機能の強化

知的価値創造

社会実装

ガバナンス

R5

R6

R7

R8

R9

R10

6年目以降

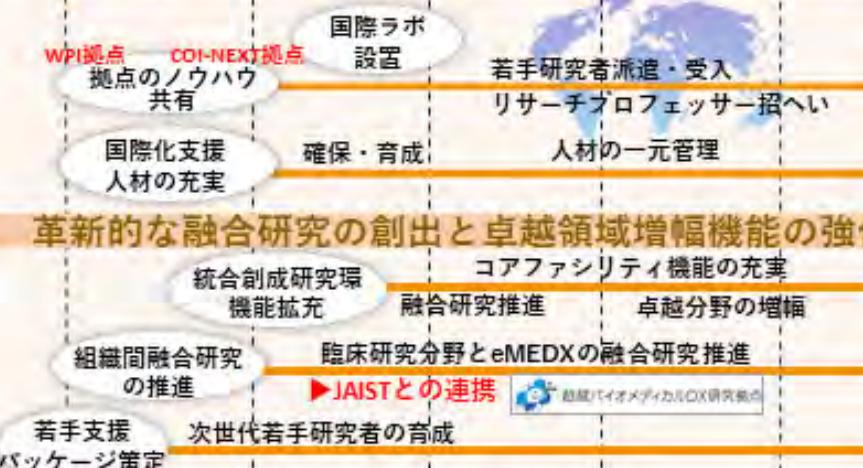
10年後

知的
価値創
造

社会実装

ガバナンス

国際頭脳循環や研究支援体制の充実による国際化の加速



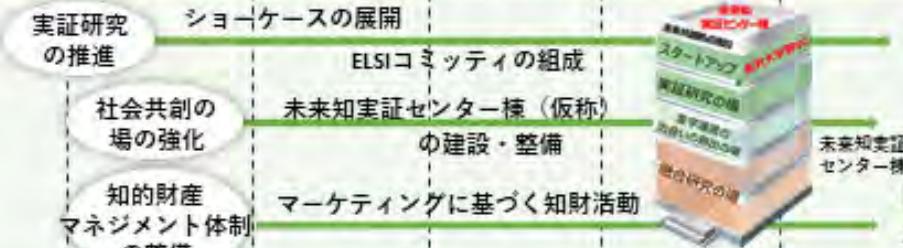
革新的な融合研究の創出と卓越領域增幅機能の強化

世界水準の
基礎研究を展開

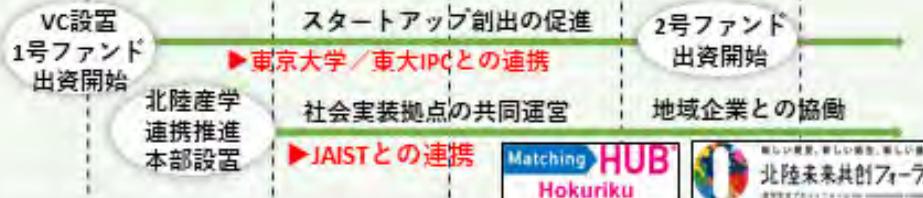
**文理医融合による
非連続的なイノベーション
の世界的拠点を形成**



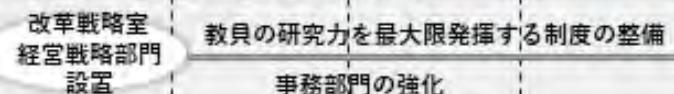
社会とのインターフェイス機能の強化



出口支援の強化



経営戦略マネジメントの強化



社会実装に向けた仕組みを
組織的・複合的に展開

持続可能な競争力
経営力とガバナンス

2. 未来知実証センターについて

スタートアップ起業
社会実装加速の拠点



地域中核・特色ある研究大学強化促進事業による未来知実証センター

未来知実証 センター

スタートアップ
起業
社会実装加速
の拠点



知財マネジメントの強化

- Startup · 起業加速の拠点
- 他地域のVCや特許庁との連携拠点
- ピッチイベント · セミナー · 交流会

＜意義・効果＞

- 国際ラボによるシーズ創出
- シーズ発掘 · 伴走支援の高度化 · 加速
- スタートアップの機運醸成
- スタートアップ知財の強化



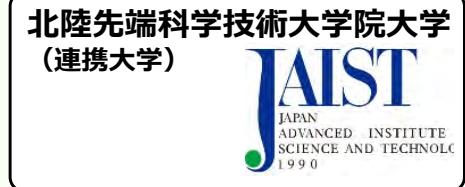
連携



連携



(参画機関)



連携・起業マインドを強化するオープンスペース

3階～4階中央ぶち抜き！ 交流 · イベントスペースに！ 「場の力」を機能させる。

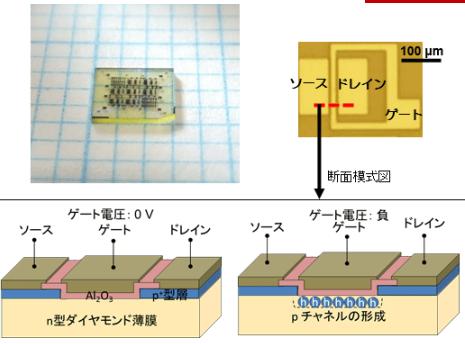


知と人材が交流 · 融合し、チャレンジマインドが創出される。

3. 独創的な世界トップレベルの研究

ダイヤモンド研究センター

ダイヤモンド研究センターが目指す未来



2016年 金沢大独自技術の融合による
世界唯一のダイヤモンド反転層MOSFET

<https://doi.org/10.1038/srep31585>
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/rd/39890/>

宇宙科学の深化
宇宙ビジネスの発展
人類の宇宙進出

2025年 性能10倍超を実現

ALLダイヤモンド半導体

→ロジックデバイス
メモリデバイス
アナログIC
パワーデバイス

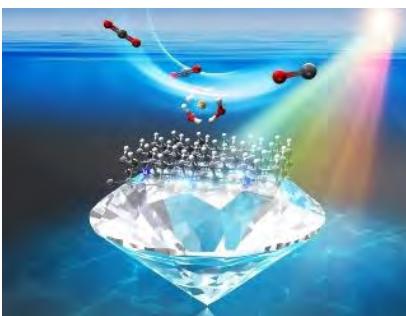


<https://www.nature.com/articles/d42473-025-00054-5>
<https://doi.org/10.1016/j.carbon.2025.120024>

電気化学

量子技術

CO₂資源化技術応用



<https://doi.org/10.1016/j.carbon.2023.118689>

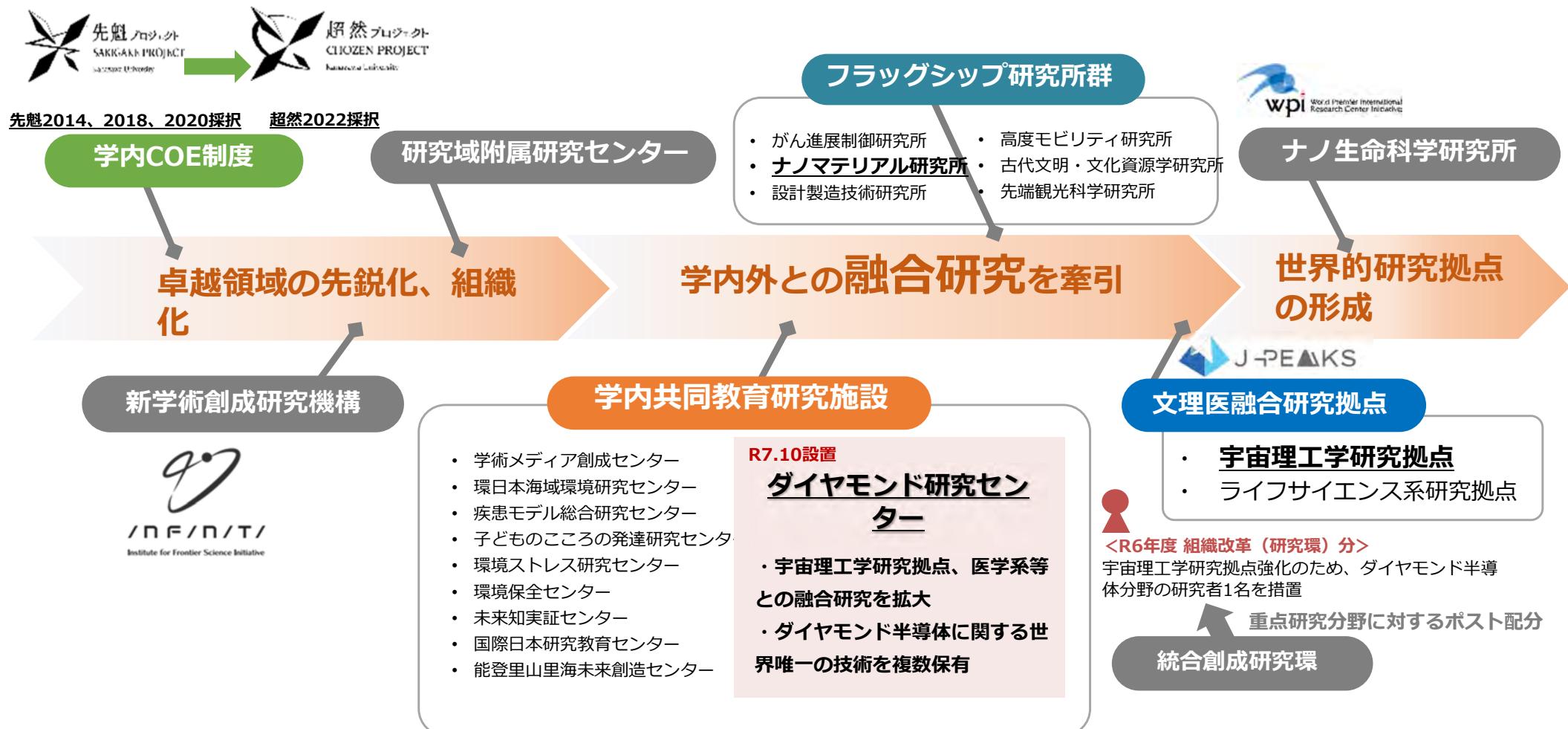
医療技術応用



イメージ図

ダイヤモンド研究センター立上げの狙い（全学の視点から）

本学が有するダイヤモンド半導体シーズの優位性を生かし、ダイヤモンド半導体技術を用いた**学内外の融合研究と社会実装を強化・拡充する**





人類の起源研究 パレオゲノミクス研究室



覺張 隆史

Gakuhari Takashi

金沢大学 古代文明・文化資源学研究所

- ✓ 人類集団の起源研究
- ✓ 「考古学×医学」の新しい融合研究の創出
- ✓ パレオゲノミクスの分析技術の研究開発



中米ホンジュラス・マヤ文明の世界遺産「コパン遺跡」

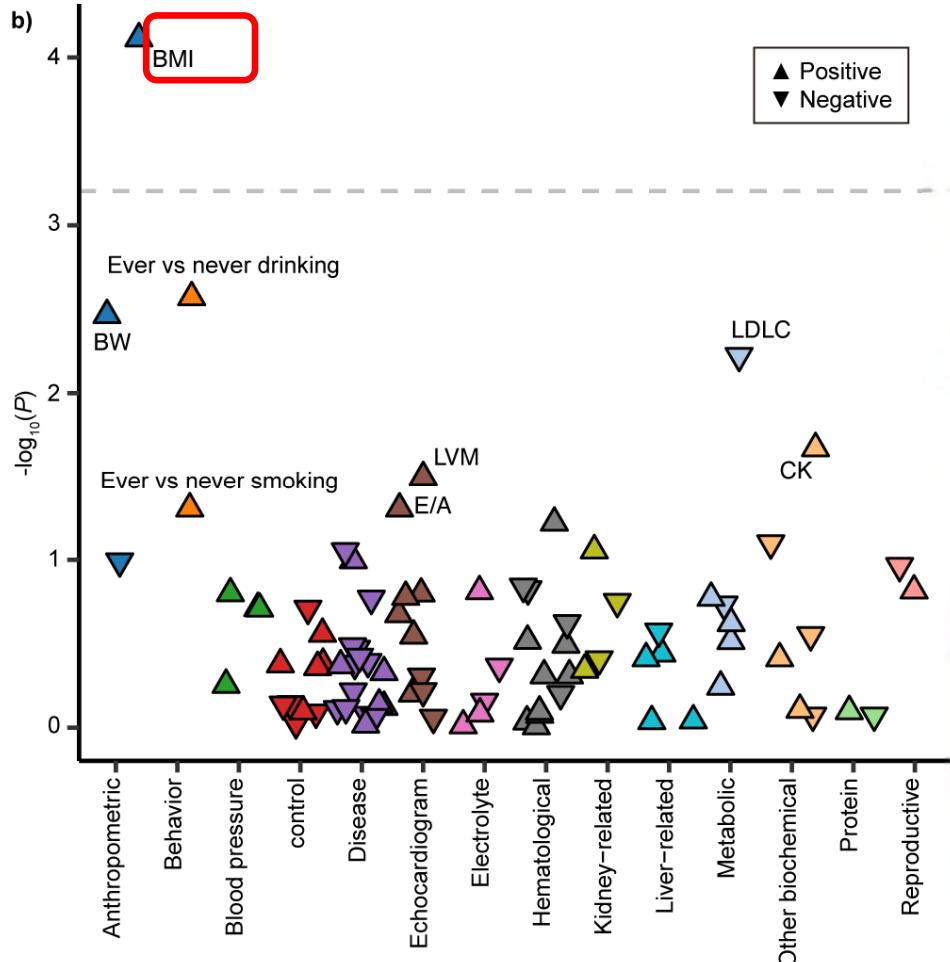


モンゴル・チンギスカン博物館



金沢大学・実験室

縄文人から現代人へ受け継がれた遺伝的遺産がBMIを上昇させる



Yamamoto *et al.* 2024 *Nature Communications*

疾患に潜む免疫系と骨の意外な関係を明らかにする

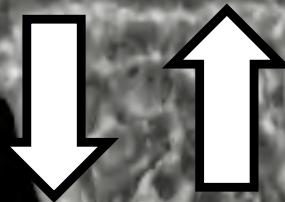
岡本 一男

新学術創成研究機構免疫ネットワーク研究ユニット
がん進展制御研究所
免疫環境ダイナミクス研究分野 教授



免疫系

造血幹細胞、リンパ球、マクロファージ、顆粒球などの様々な免疫細胞



骨

破骨細胞、骨芽細胞、骨細胞、間葉系幹細胞などの様々な骨構成細胞



関節リウマチ

Okamoto et al, *Nature*, 2010

がん骨転移

Asano, Okamoto et al, *Nat Metab*, 2019

自己免疫疾患

Guerrini, Okamoto et al, *Immunity*, 2015

Inoue, Okamoto et al, *Nat Immunol*, 2019

感染症

Terashima, Okamoto et al, *Immunity*, 2016

骨・筋肉損傷

Ono, Okamoto et al, *Nat Commun*, 2016

“免疫系・骨による多細胞間ネットワークを紐解き、疾患を理解する”

最近の研究成果

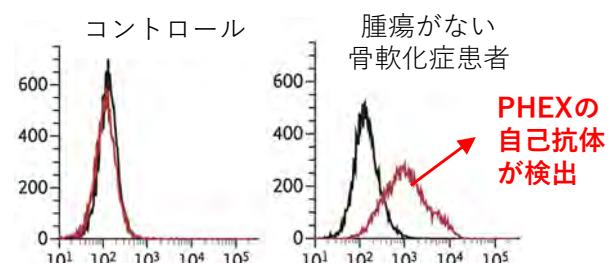
FGF23関連低リン血症性骨軟化症:

血中リンの慢性的な低下により、骨の石灰化が障害される疾患



これまで腫瘍によるFGF23産生が原因とされてきたが、疾患の一部は自己免疫が原因だった。

新たな疾患「自己免疫性骨軟化症」を提唱



～新規の診断法・治療法の開発へ～

臨床医学雑誌の最高峰・*New Engl J Med* (IF=96.2)に掲載

※日本経済新聞、北国新聞、Medical Tribune等、各メディアで紹介

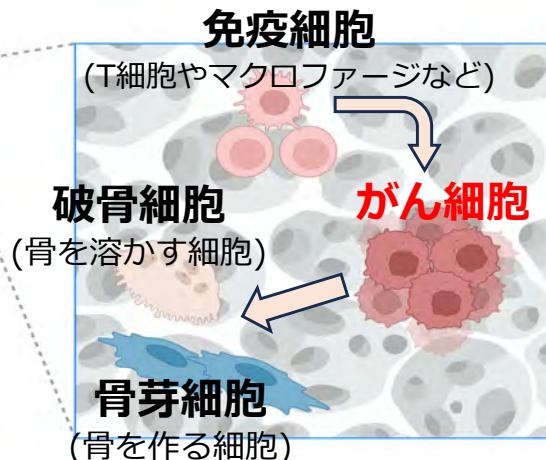
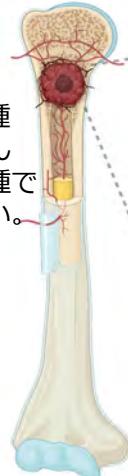
Hoshino, Okamoto et al, *New Engl J Med*, 2025

がん骨転移における がん細胞、免疫細胞、骨の細胞間ネットワーク

◆がん骨転移の病態機序解明と治療法開発

がん骨転移

- ・乳がん
- ・肺がん
- ・腎がん
- ・悪性黒色腫
- ・前立腺がん
- などのがん種で
起こりやすい。



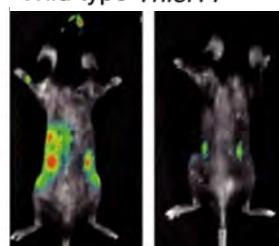
がんが骨に転移する メカニズム

(可溶型RANKLによる転移誘導)

B16F10 Red-FLuc

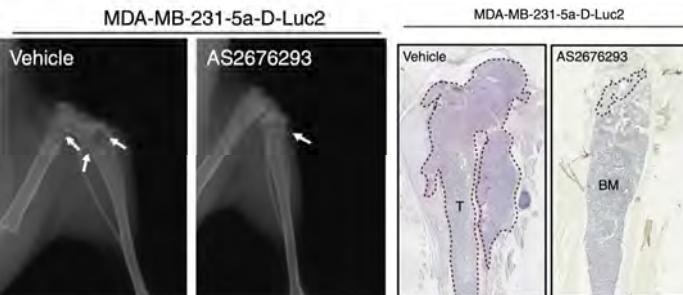
Wild-type *Tnfsf11*^{ΔS/ΔS}

Day 8



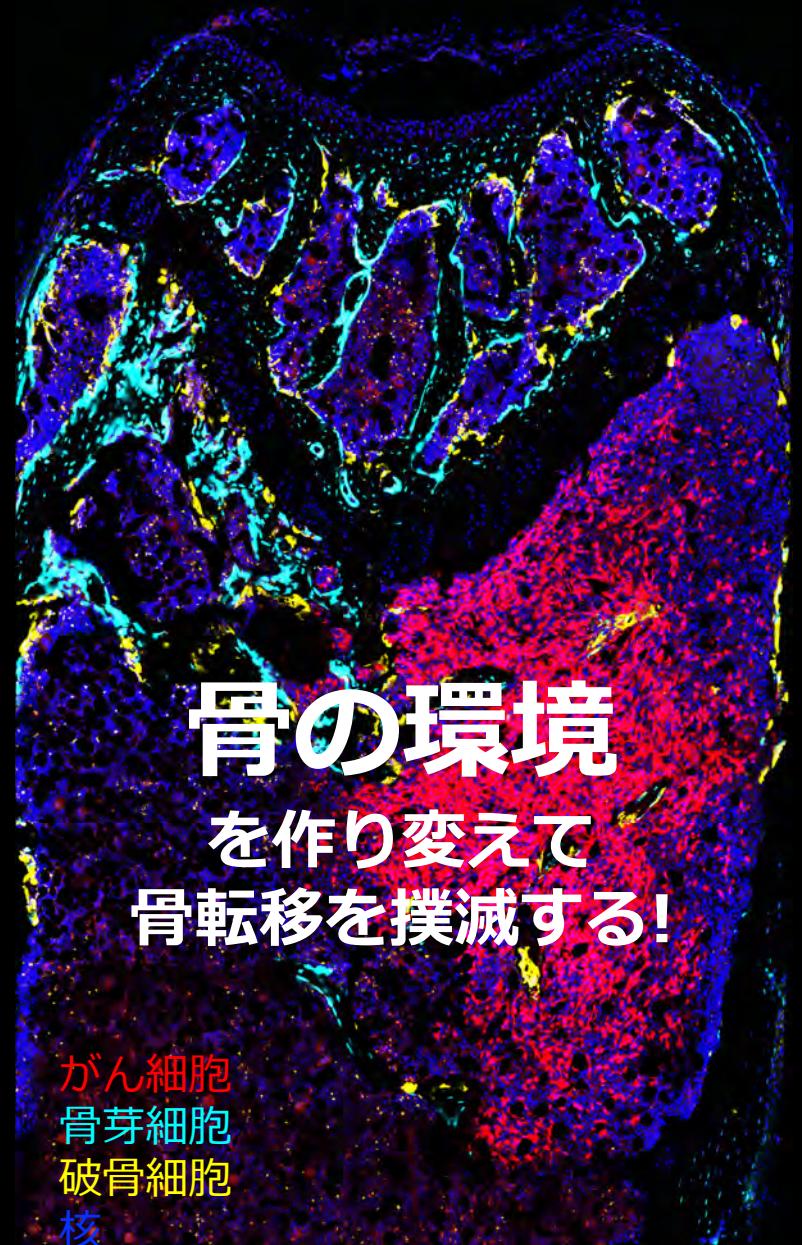
新規RANKL低分子化合物 による骨転移阻害法開発

アステラス製薬・湧永製薬との共同研究



Asano, Okamoto et al, *Nat Metab*, 2019

Nakai, Okamoto et al, *Bone Res*, 2019



令和7年度 文部科学省 未来を先導する世界トップレベル 大学院教育拠点創出事業採択

文部科学省 令和7年度「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」(Future-Leading and Advanced Graduate-schools【FLAGS】)

多面的な連携が生み出す「知」の共創と往還による新価値創造人材の育成・輩出拠点

申請大学：金沢大学

連携大学：北陸先端科学技術大学院大学

参画大学：富山大学、福井大学

金沢大学憲章

地域と世界に開かれた
教育重視の研究大学

金沢大学未来ビジョン 志

大学院の飛躍的な機能強化

【10年後の将来像】

国内外の優秀な学生に選ばれ,
新たな価値を創造する博士人材を育成し,
我が国と世界へ持続的に輩出する大学

本学の理念と基本的方向性

- ・「未来知」による社会への貢献
- ・教育と研究をつなぐ博士人材育成
- ・北陸地域4国立大学の連携基盤と波及
(石川県・富山県・福井県)

【大学院改革のビジョン】

より開かれた環境のもと、多様なセクターとの協働により
博士人材を育成する大学院教育への転換

【人材像】

未来への新たな価値を創造し,
社会の持続的な発展を牽引する博士人材「新価値創造人材」

国内外のアカデミア



KANAZAWA UNIVERSITY

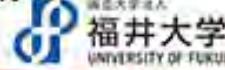
融合科学
共同専攻



JAIST

産業界

参画大学



福井大学
UNIVERSITY OF FUKUI

(M2018年度-/D2020年度-)

参画大学



富山大学
UNIVERSITY OF TOYAMA

官公庁 国際機関

H4U

北陸地区国立大学連合

北陸地域は日本・世界の
ニッチトップ企業が集積
北陸モデル

ニッチトップ企業
新価値創造人材
世界と伍する

多様なセクターとの協働による開放的かつ共創的な大学院教育へと転換し,
大学自身の「変革」のみならず、社会の「変容」に働きかけます。



世界標準の研究教育環境による若手研究者育成と国際化
非連続なイノベーションを創出し続ける世界的研究拠点

日本全体への波及

令和7年度 国立研究開発法人日本医療開発研究開発機構 AMED 医学系研究支援プログラム採択

現状・課題

- ▶ 臨床医学・基礎生命科学いずれもTop10%補正論文数の世界シェアは低下傾向にあり、医学系研究の相対的な国際競争力の低下が危惧されている。
- ▶ 医学系研究は、健康・医療に直接的に貢献するとともに、創薬力の向上等を通じ我が国の産業競争力にも直結する重要な研究領域であり、新たな事業を創出し、医学系研究力の向上を図る。

<参考> 政策文書における記載

- ▶ 経済財政運営と改革の基本方針2024（令和6年6月閣議決定）
大学病院等の研究開発力の向上に向けた環境整備やAMEDの研究開発支援を通して研究基盤を強化することで創薬力の底堅い強化を図る。
- ▶ 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2024（令和6年6月閣議決定）
また、大学病院に所属する医師の研究開発活動について、診療・地域医療への貢献により十分な研究時間が確保できないといった課題があることから、日本医療研究開発機構（AMED）を通じて、医学研究者の研究時間の確保等を取り組む大学において、医師の研究を補助する機会の確保等、研究環境の効率化を進める。
- ▶ 創薬力の向上により国民に貢献の医薬品を迅速に届けるため構想会議中間とりまとめ（令和6年5月）
…医療DXやAI利用による業務効率化に積極的に取り組むとともに、先端的な医療や臨床試験を実施する大学病院の研究開発力の向上に向けた環境整備を推進することが重要である。

事業内容

事業実施期間

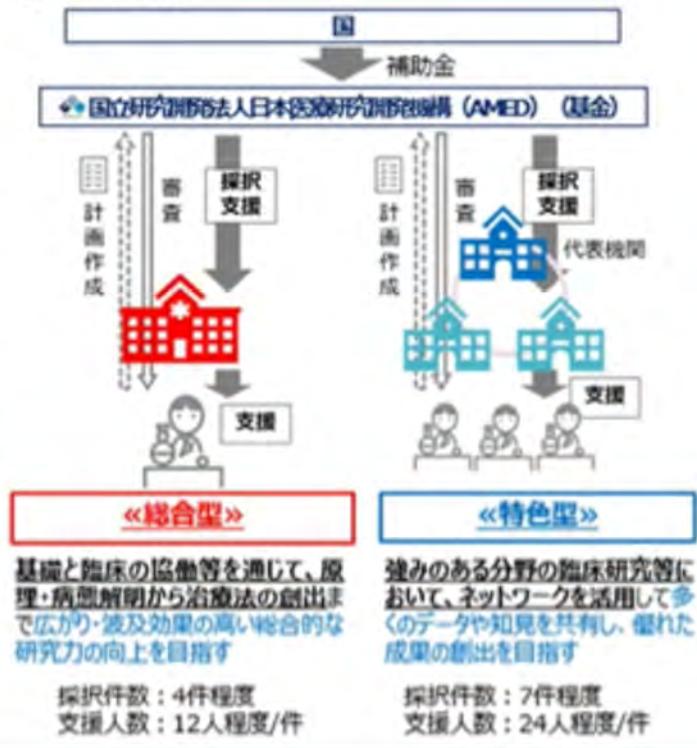
～令和9年度

- ・ 国家戦略上重要な研究課題[※]に取り組む研究者の研究活動と、大学病院・医学部としての研究環境改善に係る取組（例：研究時間の確保、他分野・他機関との連携強化、一定の流動性の確保等）とを一体的に、基金を活用して柔軟かつ機動的に支援することにより、医学系研究の研究力を抜本的に強化する。
※今後、関係省庁と調整の上策定（例：創薬エコシステム、がん、難病等）
- ・ 具体的には、大学病院・医学部を置く大学の中から、医学系研究者の研究時間の確保、基礎生命科学や他分野を含めた多様な人材からなる研究チーム形成、国研や産業界、海外等との頭脳循環の推進等に取り組む大学を公募・採択する。
- ・ 採択された大学から選抜された研究者に対し研究費を支援するとともに、上記のような機関としての取組も支援する。



◆研究環境の改善に係る機関の取組が推進されるとともに、国家戦略上重要な研究領域における研究活動が加速され、医学系研究において優れた研究成果が創出される。

【事業スキーム】



分科会 D

多様な人材が活躍できる研究・产学連携とは？ ～社会人学生はじめ、誰もが参加できる仕組みや環境づくり～

ファシリテーター
森下 英理子 学長補佐
大黒 多希子 学長補佐

概要

- ①『多様な人材』の定義
- ②金沢大学での研究・产学連携におけるダイバーシティ推進機構などの活動
- ③研究・产学連携へ誰もが参加できる仕組みや環境づくりの課題

組織や社会において異なるバックグラウンドや価値観を持つ人々を包括的に捉える概念

多様な人材の主な観点

1. 属性の多様性

性別、年齢、国籍、人種、文化、宗教、性的指向、障害の有無など
いわゆる「ダイバーシティ」でよく議論される外的・社会的属性

2. 経験キャリアの多様性

学歴や専門分野、職歴、社会人経験の有無、企業経験など
社会人学生やリスキリングを行う人材はここに含まれる

3. 働き方・ライフスタイルの多様性

正規・非正規、フルタイム・パートタイム、テレワークなど勤務形態の違い
子育てや介護との両立、セカンドキャリアなどを含む

4. 価値観・思考様式の多様性

問題解決のアプローチ、コミュニケーションのスタイル、リーダーシップの形
異なる発想がイノベーションを生み出す源泉になる

昨今大学でも、単に多様な人を集めるだけでなく、その**多様性を活かして相互に学び合い、成果に繋げること**が重視されている



ダイバーシティ
推進機構について



女子学生
女性研究者



女子中高生



育児・介護



外国人研究者



留学生



LGBTQ+



障がい者

金沢大学ダイバーシティ推進機構

本学すべての構成員が相互に属性・個性を
尊重し合える共生社会の実現へ

ダイバーシティ推進機構は、令和4年4月の設置以来、ダイバーシティに関する施策立案、事業実施を担い、本年度で4年目を迎えました。令和6年4月には、組織改編を行い、ワークライフバランス部門（働き方改革、環境整備）、キャリアデザイン部門（女性研究者支援、次世代育成）、インクルージョン部門（障がい者、外国人教職員、留学生、LGBTQ+支援）、教育研究部門（ダイバーシティ研究推進とプログラム提案、研修）、宝町・鶴間キャンパス部門の4部門体制のもと、より一層の推進体制を整えました。

令和5年に発出した「ダイバーシティ推進宣言」に基づき、金沢大学は、地域と世界への貢献をめざして発展するため、さまざまな属性・個性を持つ一人ひとりの構成員が誇りをもって互いに認め合い、修学・研究・業務において、志高く自らの能力を最大限に発揮できる公正性が保障された環境の実現に取り組んでいます。今後も、より実効性の高い施策の展開に努め、さらに包括的なダイバーシティ環境を推進してまいります。一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

女性研究者等研究支援制度

研究パートナー制度：育児・介護中に研究パートナーを雇用する人件費を支援

女性研究者等研究支援制度：復帰支援・スタートアップ・女性研究者NWの構築・大型研究費申請支援

女性研究者研究コラボレーション推進支援制度：海外派遣・国際シンポジウム開催・分野別研究人材交流会開催支援

一時的研究補助員制度

共同研究支援制度

リカレント/リスクリング教育(金沢オープンアカデミー)

女子中高生のための取組

研究室体験イベント(女子中高生対象)

女子中高生の理系選択講演会

育児・介護支援

育児介護支援

研究パートナー制度

女性研究者等研究支援制度

ベビーシッター利用料金割引事業

ベビーベッドの貸出

はあざみルーム

大学間人材交流調査



子育てサポート企業



外国人留学生/研究者支援

Life & Study at KU

留学生の就職支援(LINK KAGAYAKI)

子供の就学・就園

相談・支援:日本語教室情報・子育て支援など



留学生キャリア形成・地域定着促進プロジェクト



Events

Flowing Somen Noodles/ 流しそうめんイベントを開催!

2025/08/07

LGBTQ+支援

LGBTQ+サポートガイド

LGBTQ+相談窓口

金沢プライドパレード

リーフレット「LGBTQ+と金沢大学」

LGBTQ+対応研修

障がい者支援

障がいがある教職員生活相談窓口

LGBTQ+と金沢大学
～誰もが自分らしくいられるキャンパスへ～

**通称名で過ごせる
キャンパスライフ！**

金沢大学では「通称名に係る申出書」を提出することで、戸籍上の氏名や性別とは異なる氏名・性別を使用できます。通称名で授業や定期試験を受けられ、卒業・修了できます！ただし、学位記や本学が発行するすべての証明書にも（卒業・修了後も）通称名を記載するため、注意が必要です。また、在学中に通称名の使用を中止することも可能です。

**LGBTQ+ サポートガイド
/LGBTQ+ Support Guide**

LGBTQ+ の当事者や周囲の人の修学・就労における支援や心配事を解消することを目指し、本学の取組や対応をまとめた「LGBTQ+ サポートガイド」を公表しています。

In order to alleviate any challenges and concerns that LGBTQ+ and those around them may face in pursuing their studies and works, we have put together "LGBTQ+ Support Guide," describing our initiatives and responses.

LGBTQ+ 相談 / LGBTQ Consultation

LGBTQ+ や周りの人たちが抱えるさまざまな悩みごと、性自認や性的指向等に関する相談窓口を設置しています。当事者の周りの方からの相談も受け付けます。相談は、専門知識を持ち、守秘義務のある担当者が対応しますので、安心して相談してください。対面相談を希望する場合は、事前予約フォームにて予約してください。

Our consultation desk responds to daily concerns and worries that LGBTQ+ may have regarding gender identity, sexual orientation, and so on. Those around LGBTQ+ can also use our consultation services. Please feel free to contact us as consultations are handled with confidentiality by staff members who have specialized knowledge. For face to face consultations, please submit a reservation form in advance.



ABOUT

金沢大学オープンアカデミー (KOA) とは?

2040年に向けた新たな学びの構築に向け、社会人向けのリカレント教育を抜本的に見直し、広く社会ニーズに対応した付加価値の高い学習事業を、産業界・地域住民・自治体等と連携し新たに提供します。

金沢大学オープンアカデミーが提供する教育事業は、多様な学生、多様な講師、多様なプログラムで構成され、専門的知識の習得だけではなく、人生を愉しむことも大切にする新たな学びです。



金沢大学 リカレント教育講座
「大規模データ取得・管理・活用を進める技術人材」育成プログラム

HOME プログラムについて カリキュラム 企業等在職中の方へ お知らせ 参加申込・お問い合わせ・修了生の声

北陸地区の最先端設備でデータを扱い
3ヶ月コースで今後必要とされる
「研究支援者・開発支援技術者」へ

金沢大学
保健学リカレント教育講座
『北陸の中心で多職種から学ぶ』
メディカルスタッフのための未来キャリア創造プログラム

2025
受講生募集

3つの講座で
リカレント
金沢市助成金対象
※一部講座を除く

受講生満足度
97.7%
(R6年度実績)

文理医融合研究による非連續イノベーションを創出し続ける世界的研究拠点へ

宇宙理工学研究拠点：一番星の発見へ

**先端宇宙理工学
研究センター**



米徳 大輔 教授
宇宙物理



トピック2リーダー



松田 昇也 准教授
超高層物理学

**ナノマテリアル
研究所**



コアメンバー



徳田 規夫 教授
ダイヤモンド半導体



トピック7リーダー



莊司 泰弘 准教授
宇宙工学

**環日本海域
研究センター**



コアメンバー



福士 圭介 教授
地球宇宙化学



トピック6リーダー



林 寛助 教授
ダイヤモンド
量子センサ



松木 篤 准教授
大気環境科学

連携
融合
深化 発展

ライフサイエンス系拠点：“生きる”の融合科学

老化秩序班

拠点リーダー



中田 光俊 教授
脳神経外科学



脳秩序班

コアメンバー



吉村 優子 教授
発達・教育



ヒト秩序班

コアメンバー



今村 公紀 准教授
iPS細胞



コアメンバー



木村 岳裕 准教授
神経科学

コアメンバー

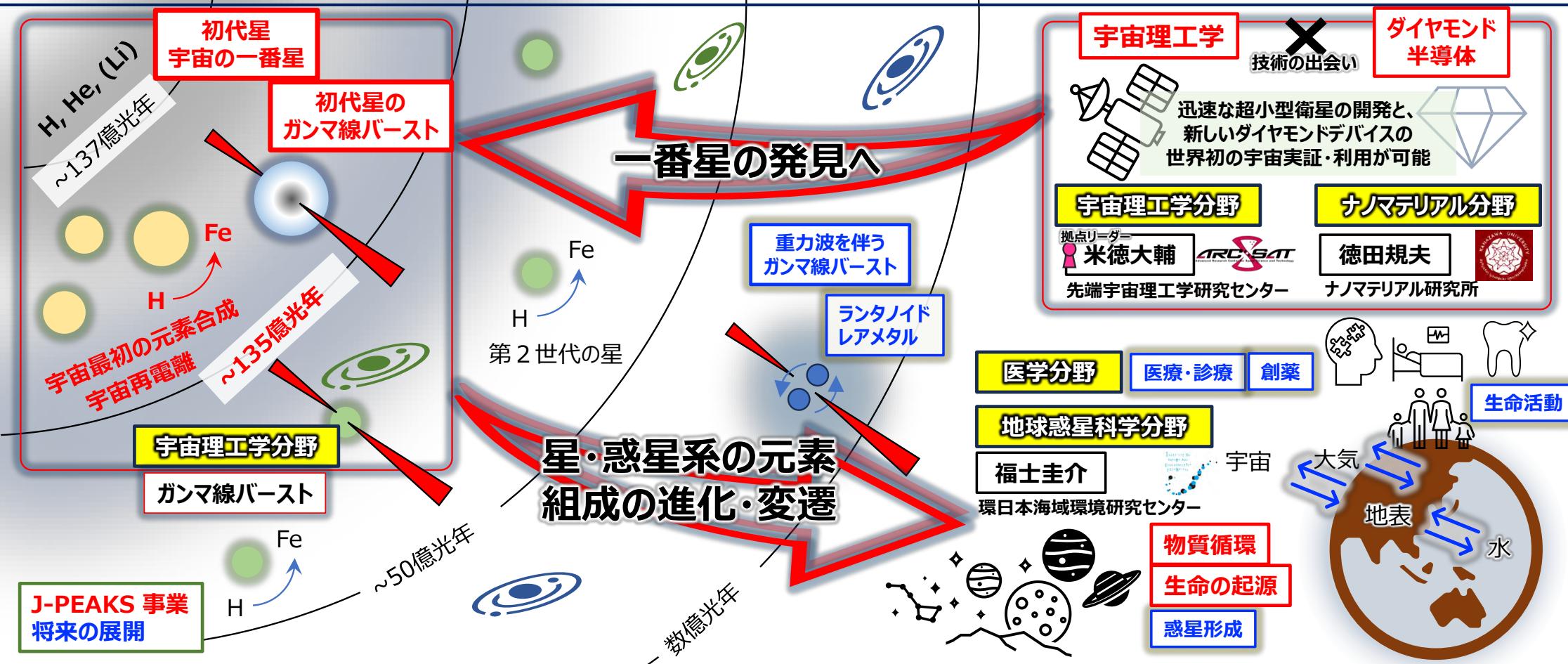


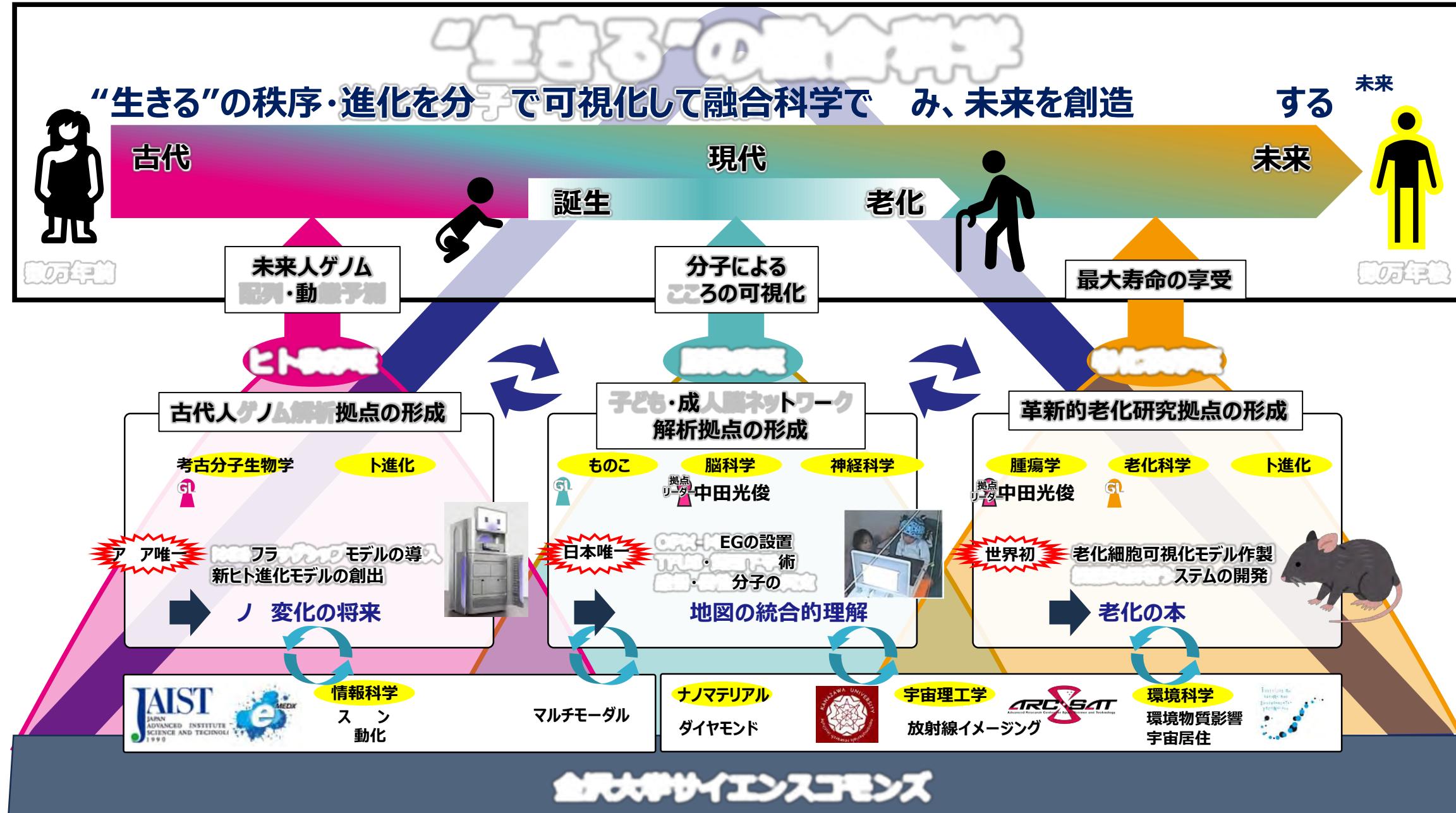
覚張 隆史 准教授
考古分子生物学



<天体形成と元素合成から宇宙史を紐解く>

宇宙で最初に誕生した星(第一世代星・宇宙の一番星)からのガンマ線バーストを世界で初めて観測することで、宇宙進化における多様性の発現や元素組成の変遷を理解し、惑星系における元素循環・生命の起源に迫る。本学の「宇宙理工学」、「ダイヤモンド半導体工学」、「地球惑星科学」が融合することで、ダイヤモンド半導体を中心とした人工衛星・気球などの飛翔体を用いた科学観測を実現する。







新しい価値の創造

5F | スタートアップの場

金沢大学発VCによるスタートアップ創出・成長への伴走型支援を行っています。



4F | 実証研究の場

未来社会への研究成果実装に向け、PoC獲得、実証研究、共同研究等を実施しています。



3F | 共創の場

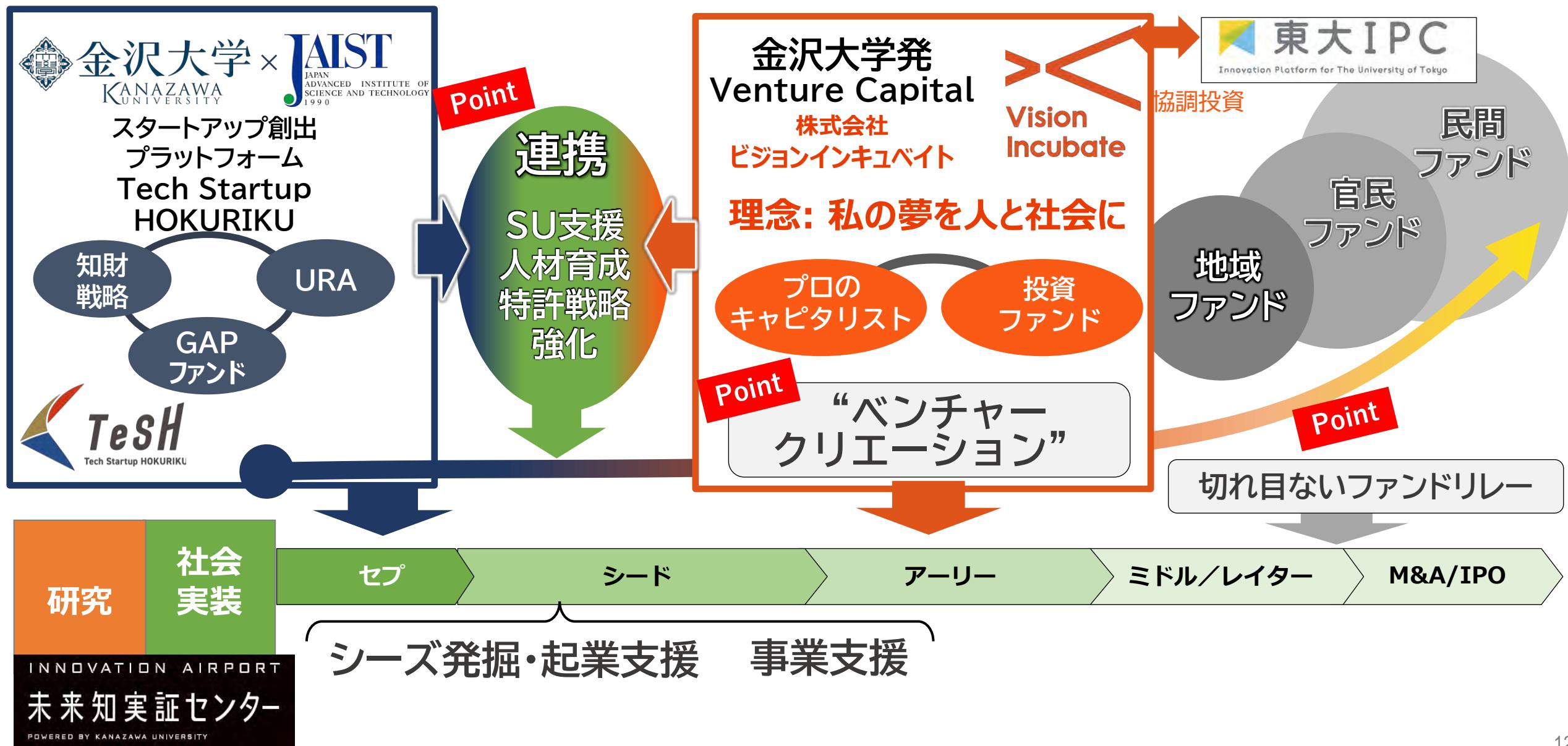
「未来知」を集結し、「产学官金」との共創によって、イノベーションハブとなります。



1・2F | 融合研究の場

文理医融合による融合研究を推進し、世界的研究拠点の形成を目指しています。





シーズ発掘から事業化まで一気通貫の支援体制整備 → スタートアップ創出の加速

SU創出前： 事業化研究シーズを発掘し実証

SU創出へ大学発VCとの協働

SU創出・未来社会の実現へ

2023年4月創設
未来知実証センター

- ✓ 未来社会を見据えた課題設定
- ✓ 課題解決に向けてPoC獲得
- ✓ ショーケースとして見える化
- ✓ 産学官金へ発信

2024年2月開始
Tech Startup
Hokuriku

- ✓ 研究マインドと起業挑戦マインドの橋渡し
- ✓ GAPファンドによる、研究開発加速
- ✓ VCへの橋渡し
- ✓ 経営者候補人材などのネットワーク構築

■ 2024年度 GAPファンド



■ 2025年度 GAPファンド

2023年8月設立
金沢大学発VC
(株)ビジョンインキュベイト

- ✓ ベンチャークリエーション
- ✓ 大学とVC協働で伴走支援
- ✓ VIファンドによる資金調達
- ✓ 他のVCとの協調連携により成長加速

■ 2024年度～ VC伴走大型GAPファンド

ナノ生命科学研究所
華山 力成 教授

高品質デザイナーエクソーム製剤の製造・医薬品化

医薬保健学総合研究科
渡部 良広 特任教授

抗体エピトーププロファーリングによるアレルギー疾患創薬

ナノマテリアル研究所
當摩 哲也 教授

低コスト・長寿命・高性能次世代フィルム太陽電池の実現

金沢大学
認定ベンチャー
(スタートアップ)

- ✓ 世界でここにしかない「未来知」により新しい価値を創造・早期実現
- ✓ 地域・世界に社会的インパクト

5号 (株)ムービーズ

'24/5/30 設立

高度モビリティ研究所 菅沼教授、米陀准教授
世界で唯一 雪道・地図に依存しない自動運転

6号 X Cube Solutions(株)

'25/2/25 設立

理工研究域
高橋 憲司 教授COI-NEXT プロジェクト
「再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点」研究成果の社会実装

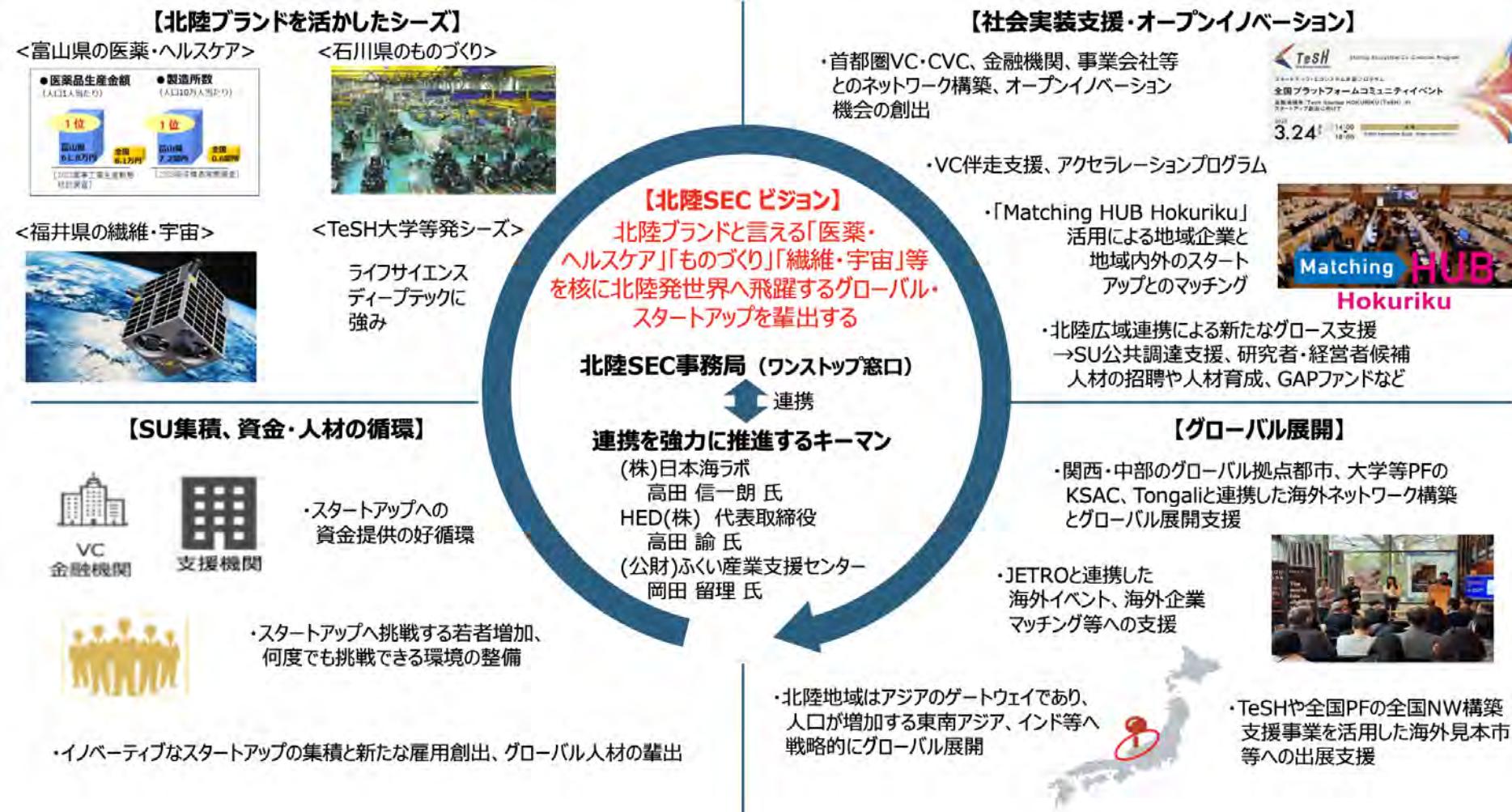
7号 (株)FMK Solutions

'25/4/9 設立

AI・DX・データ
解析を駆使し、
インフラメンテナンスをはじめとした
社会課題解決

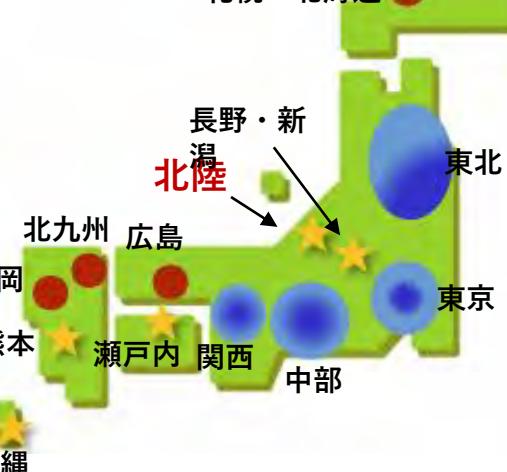
【产学連携】内閣府「NEXTグローバル拠点都市」に北陸3県が選定

- 「北陸スタートアップ・エコシステム・コンソーシアム (HOSTEC)」が、R7年6月にNEXTグローバル拠点都市に選定
- 今後、北陸地域において、グローバル展開を目指すスタートアップ創出支援の取組が強化されていく



スタートアップエコシステム 拠点都市の概観

札幌・北海道



● グローバル拠点都市（中核都市型）

● グローバル拠点都市（広域都市圏型）

★ NEXTグローバル拠点都市

グローバル拠点都市：

世界に通用する都市の産業・研究ポテンシャルを発揮し、海外エコシステムと連携して世界的ネットワークを形成する拠点都市

NEXTグローバル拠点都市：

地域の尖った産業やリソースを活かして、地域経済を活性化しながら海外エコシステムにも繋がる拠点都市



■バイオマス・グリーンイノベーションセンター (BGIC : ビージック) とは

- 金沢大 が掲げる『未来知による社会貢献』や、新たな産学連携の象徴的存在として、
株式会社ダイセルの協力を得て設置した共創研究拠点
- 大学と企業との共創によって、社会課題を解決し、持続可能な循環型社会を実現
- **複数** や企業がオープンに参画し、業種や専門の壁を越えた自由な交流と、
それぞれの特色を活かした異分野融合による価値共創を目指す

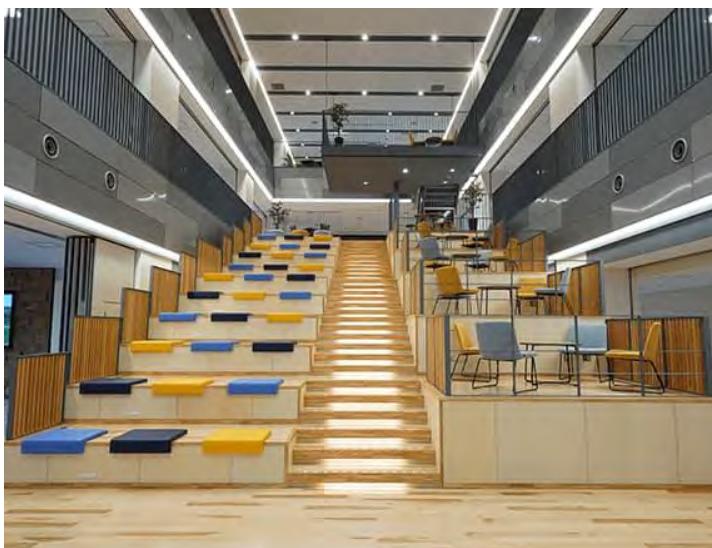


■ 設立までの経緯 - (株)ダイセルとの連携 -



【产学連携】バイオマス・グリーンイノベーションセンター(BGIC)

2022年10月 竣工
2023年 4月 本格稼働



平面計画

■イノベーションを創発する空間の形成

イノベーションを生み出す空間づくりとして、低層階中央にステップホール、高層階に実験・研究スペースをつなげるコミュニケーションボイドといった吹抜け空間を中心に配置計画された諸室を設け、オープンイノベーションスペースを整備します。

■明確なゾーニングと段階的なセキュリティ計画

フロア構成及びゾーニングによる段階的なセキュリティや、セキュリティゲート（電気錠）を設置することにより、入居者・利用者の実験研究成果を保護します。

■エントランスホール

ガラスや金属などの無機質な素材で仕上げることにより、既存建物とは一線を画すとともに、先進的な空間を提供します。



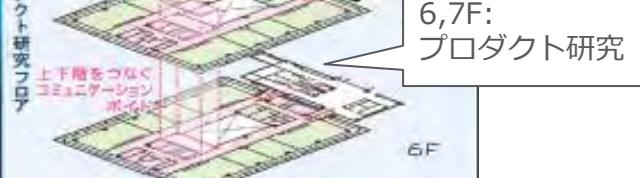
■フレキシブルラボ

実験とシミュレーション解析を行なう実験室と多目的室を1ユニットとして整備します。あらゆる実験研究に対し、自由なレイアウトや機器の配設が可能であるとともに、複数の種類の天井高さや積載荷重を備えている実験室です。

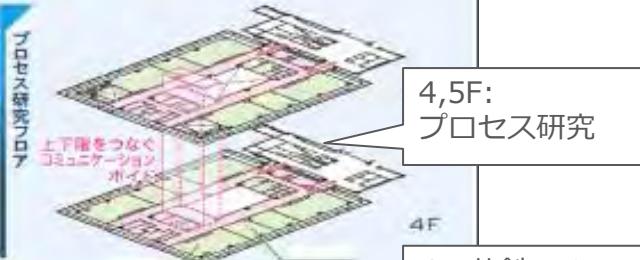


フロア構成

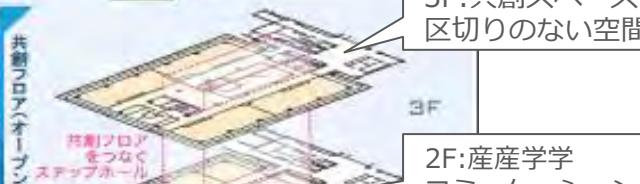
プロダクト研究フロア



プロセス研究フロア



共創フロア(オープンイノベーションの場)



セキュリティ内面

■レベル1: 共創スペース	■レベル2: 実験室	■レベル3: 実験室
■レベル4: 実験室	■レベル5: リハビリティゲート	

2F: 産学学
コミュニケーション、

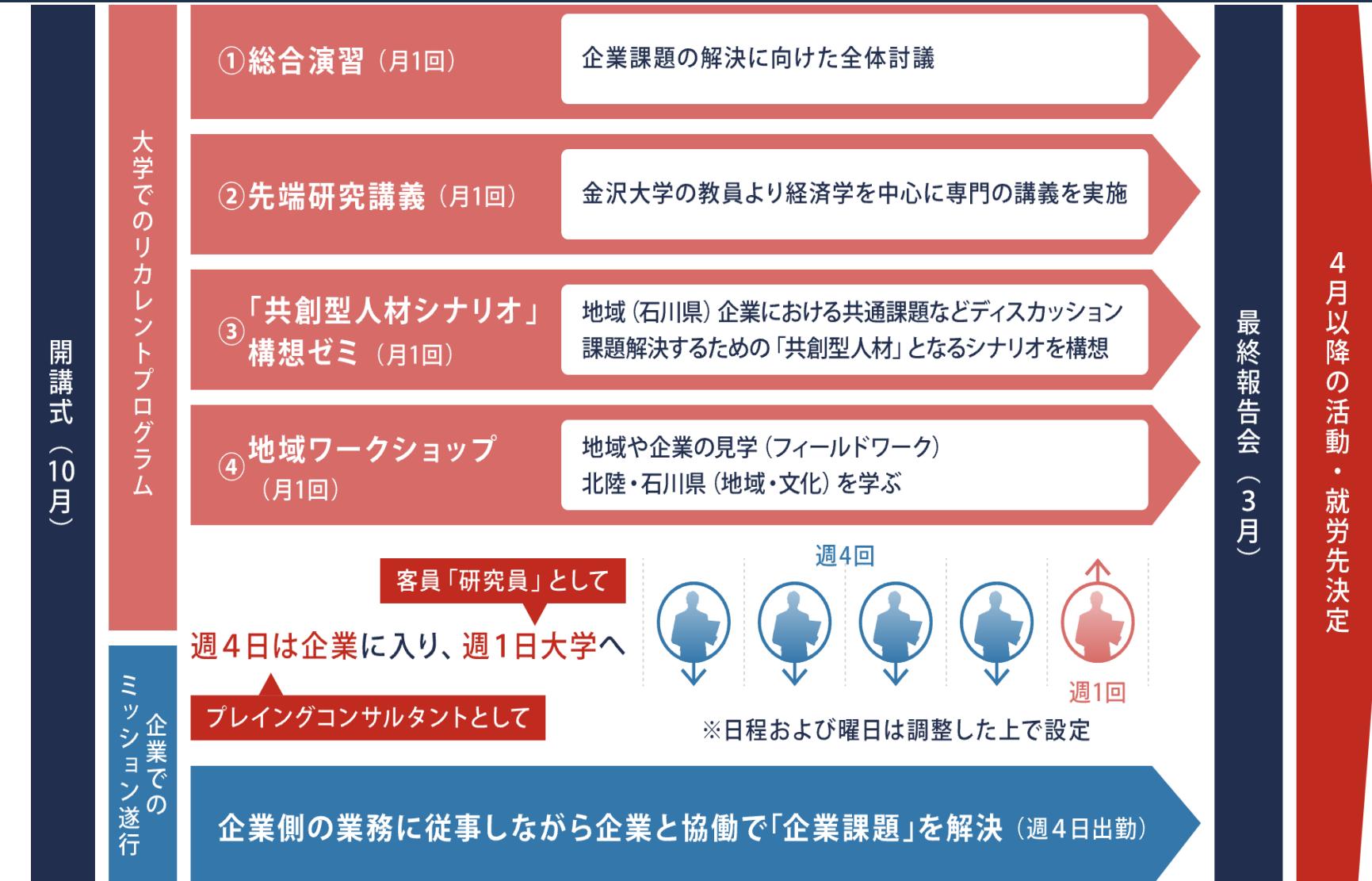
1F: 大型成型加工
(混練)、大型分
析装置(NMR)、
魅力的展示ブース

【産学連携】共創型企業・人材展開プログラム



都市部などの専門人材を地域企業に橋渡しし、
課題解決や事業の発展を目指すプログラム

【産学連携】共創型企業・人材展開プログラム



高度な専門性を有する中核人材を地域企業へマッチングし、その人材が、金沢大学の客員研究員として、県内企業個々の経営課題の解決支援を実践します。研究員は、週4日は企業において経営課題の整理・解決を行いながら、週1日は金沢大学のリカレントプログラムを受講します。

「ダイバーシティ推進とは、違いを知り・受け入れ・活かすこと」

金沢大学でこれまで築き上げてきた

多様な人材を各々サポートする体制
研究・产学連携の場

を活かして

研究・产学連携へ誰もが参加できる仕組みや環境作りをさらに推進するためには？

地域の未来を創造する大学の役割

～能登の創造的復興に向けた取組～

令和7年10月31日

グループE

ファシリテーター 篠田 隆行
枡 儀充

1. 金沢大学の未来ビジョン「志」の概要説明

2. 状況報告と意見交換 (テーマ)

2-1 急性期の取組（発災からの1年）

金沢大学能登里山里海未来創造センターについて

2-2 復旧から復興へ（現在から未来へ）

- ・地域の未来を創造する学生の取組（学生編）
- ・能登里山里海SDGsマイスターープログラムの紹介（社会人編）
- ・実証研究の展開【文理医融合の実践】（研究者編）

3. 意見交換

I. 金沢大学の未来ビジョン「志」の概要

全体構造 ・ 概要

金沢大学未来ビジョン『志』

オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する

大学憲章に掲げる基本理念に立脚し、金沢大学が目指す搖るぎない未来ビジョンを示しています。

るべき姿

- 研究** 独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充
教育 国際社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”的輩出
経営 人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

『志』として掲げる未来知による社会貢献に向け、人文社会科学、自然科学、生命科学等、多様な分野を有する総合大学としての研究、教育、経営に対するるべき姿を明示しています。

研究、教育、経営のあるべき姿に向かって、それぞれ「組織・体制の拡充と発展」「大学人材（学生・教職員）が有する力の萌芽と伸長」「未来社会の創造と深化」の3つの視点から、“いま”金沢大学が何をすべきかという3つのミッションを掲げています。

このように導かれた27のミッションが相互に連関しながら、『志』の実現を目指します。

研究、教育、経営それぞれのあるべき姿と各ミッションを達成すべく、第4期中期目標・中期計画等も視野に入れて邁進いたします。“いま”金沢大学が何を行うのかを自答し、ミッションごとにそれぞれアクションプランを明確にします。併せて、今後2年間のタイムテーブルを設定し、迅速かつ大胆に大学改革・機能強化に取り組みます。

基本理念 地域と世界に開かれた教育重視の研究大学

揺るぎない
未来ビジョン

金沢大学の「志」

オール金沢大学で「未来知」により社会に貢献する

3つの
るべき姿

独創的な世界トップレベルの研究展開による世界的研究拠点群の拡充

国際社会の中核的リーダーたる“金沢大学ブランド人材”的輩出

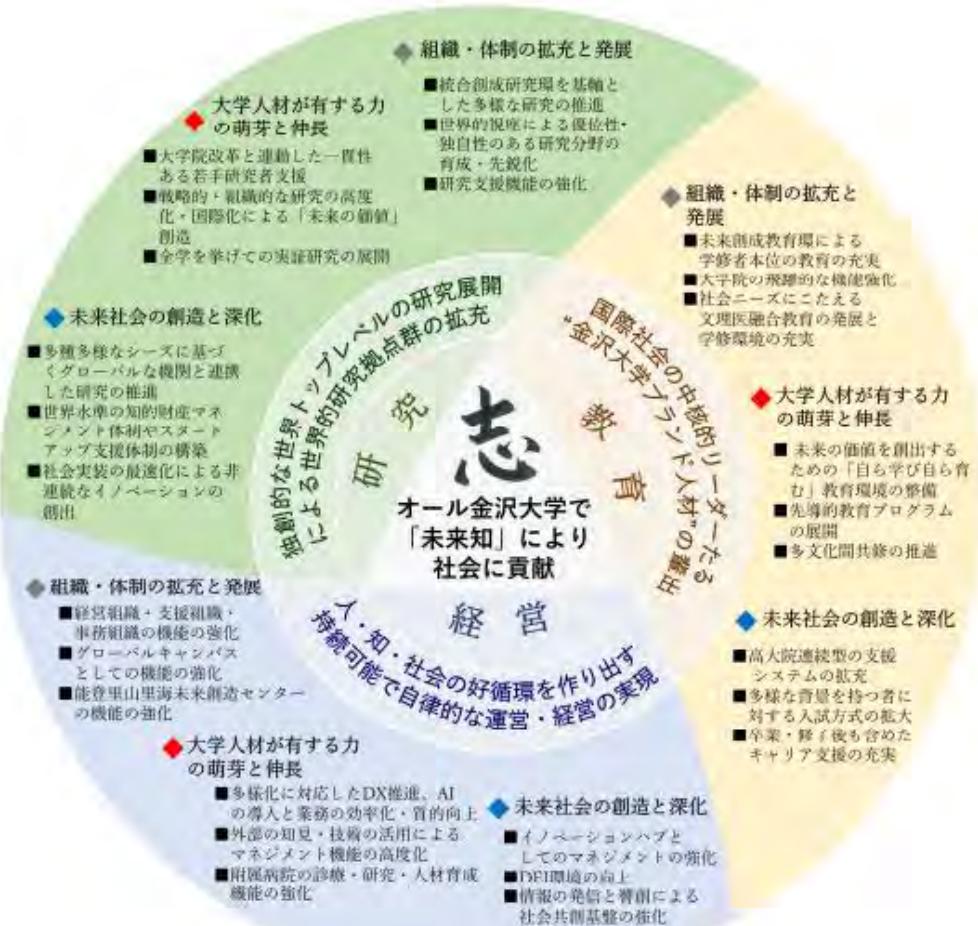
人・知・社会の好循環を作り出す持続可能で自律的な運営・経営の実現

最高点
ミッション

大学院の飛躍的な機能強化

世界的視座による優位性・独立性のある研究分野の育成・先駆化

全学を挙げての実証研究の展開



I. 金沢大学の未来ビジョン「志」の概要



創造的復興に向けて

金沢大学の英知を結集し、「地震・災害に
強く安全・安心で、誰もが住みよい、文化薫
る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与します

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震及び令和6年9月に発生した能登豪雨により、能登半島を中心に、各地で甚大な被害が生じました。人々の暮らしの復旧は急務です。金沢大学は、復興にあたって、能登が持つ素晴らしい里山里海や文化を継承しつつ、人口減少や高齢化といった以前からの課題を踏まえ、よりよい暮らし、なりわいを実現する「創造的復興」に尽力し続けます。

金沢大学は、旧制第四高等学校等の前身校から受け継いだ歴史と伝統をもとに、革新を織り込む気風を有しています。その気風は今でも受け継がれ、金沢大学憲章に掲げる基本理念「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」のもと、令和4年度からは「地域と世界の2つの視点を互いに往還させながら、未来的課題を探求し克服する知恵『未来知』により社会貢献を果たすこと」を掲るぎない未来ビジョンとして、教育研究に取り組んでいます。震災を目の当たりにし、災害復興にはあらゆる知を俯瞰的に捉え、総合的に活用し対応していく必要があるということを改めて認識させられました。まさに未来知による社会貢献が問われています。そこで、これまで培ってきた歴史と真理の追求を礎としながら、中長期的視点による、能登の教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的発展を強力に推進するため、1月30日に「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。本センターを中心に、総合大学である金沢大学の英知を結集し、復興を基軸とした実証研究の展開、復興に資する人材の輩出、文理医の融合により、現在と未来の課題を克服し、能登の創造的未来を創っていきます。そして、地域の外にも目を向け、新しい社会の姿と今後国内外で起こりうる地震・災害に対応できる災害克服の知見を全世界に発信していきます。

我々は、地域と世界に目を向け、未来知により能登の創造的復興に取り組み、新たな未来の価値を創造します。

能登の創造的復興に向けて

私たちは、震災からの復旧・復興に向け、次のことに取り組みます。これらは、未来ビジョン「志」の中において、研究・教育・経営のそれぞれでミッションとアクションとして掲げています。

- 創造的復興に向け、本学の知識と知恵を結集し、半島医療やまちづくり、なりわいづくりに繋がる研究を進めていきます。さらに、能登をフィールドにした実証研究・基礎研究を地域とともに進め、地域に寄り添いながら、能登の人づくり・まちづくりに寄与します。

ミッション 統合創成研究環を基軸とした多様な研究の推進 【研究】

【アクション】 復興に資する研究を推進し、組織化を進めます。

- 能登の社会的な地域特性や防災・減災に関する科学的知見などを学び、自身の専門分野を活かして復旧・復興に貢献できる人材を育成します。

ミッション 先導的教育プログラムの展開 【教育】

【アクション】 能登をはじめとする災害地域の復興に資する能力を養成する教育プログラムを開発します。

- 復旧・復興はもちろんのこと、教育、医療、文化、産業の再生そして持続的発展のため、能登里山里海未来創造センターを中心に、地域・自治体・企業と協調・共創し、全力で取り組みます。

ミッション 能登里山里海未来創造センターの機能の強化 【経営】

【アクション】 能登里山里海未来創造センターを中心に、地域・自治体・企業との協調・共創と文理医の融合により、能登における教育、医療、文化、産業の再生・復興そして継続的発展を推進します。さらに、国内外の機関等と連携しながら能登サテライトキャンパス構想及び研究所構想を実現します。

I. 「令和6年能登半島地震」からの復興に向けた大学の役割と期待

●高等教育機関と連携した復興の推進

金沢大学が開設した「能登里山里海未来創造センター」や、能登学舎を拠点とする能登里山里海SDGsマイスター プログラムなど、高等教育機関が進める能登をフィールドとした様々な研究・教育活動を後押しし、高等教育機関と連携した能登の復興につなげます。

●防災・復興に係る連携機関の設置

県内高等教育機関と自治体、企業、NPO等の各種団体が相互に連携し、石川県における地震をはじめとする大規模自然災害に対し、防災・減災や発災後の復興人材の育成、啓発活動、情報収集・提供等に組織的に取り組みます。これにより、これらの知見の定着と地域の活性化を図ります。

●学生の祭りへの参加促進

若者の転出などにより、キリコの担ぎ手や山車の引き手が不足する能登の祭りに、地域外の学生が担ぎ手等として参加することで祭りを盛り上げるとともに、学生が能登の伝統文化に触れる学びの場を創出します。



写真：能登学舎を拠点に展開する「金沢大学
能登里山里海SDGsマイスター プログラム」



写真：沖波大漁祭り(穴水町)に学生が参加

2. 急性期の取組（発災からの1年）

能登里山里海未来創造センター



能登里山里海未来創造センター

Noto Resilience and Revitalization Center

R6.1.30設置

理念

金沢大学の英知を集結することにより、「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与し、令和6年能登半島地震の被災地の復興に資すること

能登里山里海未来創造センター運営会議

議長

学長
和田 隆志



座長

センター長
谷内江 昭宏



里山里海創造WG

中長期的視点による創造的復興に向けた構想の立案、学内外の調整を行う。

金沢大学合同調査
チーム「KUD」

統括

研究担当理事
中村 慎一



こころのケア専門
チーム「KEYPAT」

統括

保健管理センター長
吉川 弘明



医療支援

統括

附属病院長
吉崎 智一



教育・ひとづくり

統括

教育担当理事
森本 章治



被災地支援
(ボランティア)

統括

教育担当理事
森本 章治



調査・支援活動の事例

災害ごみアップサイクルプロジェクト@輪島



支援活動速報（令和6年9月20日公開）

融合研究域融合科学系

河内 幾帆 准教授

#サーキュラー, #復興支援

流域圏（河川流域・沿岸域）での物質循環変化が及ぼす沿岸漁業への影響



調査速報（令和6年9月6日公開）

環日本海域環境研究センター

長尾 誠也 教授, 落合 伸也 助教

#斜面崩壊, #物質動態, #生物生産

中能登町で関係人口構築に向けた拠点づくりの観光プロジェクトが始動



調査速報（令和6年9月19日公開）

融合研究域融合科学系

川澄 厚志 准教授

#能登部, #旧丹後郡, #スローツーリズム, #拠点づくり, #能登上布

能登半島における文化財レスキューと能登由来博物館資料の再評価



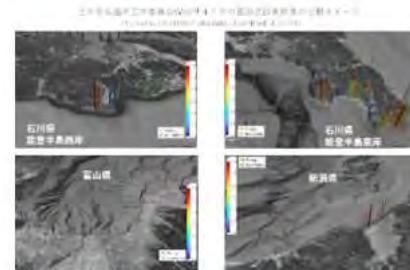
支援活動／調査速報（令和6年9月6日公開）

資料館

松永 篤知 特任助教

#横穴墓, #珠洲焼

令和6年度土木学会中部支部総会特別講演：能登半島地震津波に関する調査報告



調査速報（令和6年9月18日公開）

理工研究域地球基盤学系

由比 政年 教授

#津波, #現地調査, #痕跡高

令和6年能登半島地震による沿岸海域への物質循環影響調査#2



調査速報（令和6年9月5日公開）

理工研究域物質化学系

眞塩 麻彩実 准教授

#海洋環境, #沿岸調査, #物質循環

学生によるボランティア活動



家具を搬出する本学学生



仏壇を搬出する一般ボランティアと本学学生



プレイカーボランティアを体験する小学生



中学校での学習支援の様子



放課後子ども教室で将棋を指して交流



小学校での学習支援の様子

2. 急性期の取組（発災からの1年）

「知」と「ひと」が、
未来を拓く。

We create, we revitalize.

未来創造部門

Planning

2024年1月の発災以降、
新たに5つの拠点を整備
しました

※
輪島市、七尾市、中能登町、
加賀市



輪島サテライト開所式
(2025.7.31 輪島市NTTビルにて)

ひとづくり部門
Education



「防災・復興人材特別プログラム」

防災・復興に関する共通教育科目、専門教育科目の履修で、様々な分野において防災・復興に活躍できる力を身につけます。



豪雨災害の被災者宅での
支援活動を行う学生ら
(2024.9.29 輪島市内にて)



8月から9月にかけて開講した必修
科目は100名を超える学生が履修
しました。

まち・なりわいづくり部門
Research



「3つのL」を守り生み出す実証研究

文理医融合の研究者チームと自治体や産業界が協調・共創して実施する、3つの実証研究が動き始めます。



能登における新たな医療システムの
構築を目指す



エネルギー自給自足の「オフグリッド」
住宅の実装に向けた実証実験を行う



コミュニティプラントの
実証イメージ



里山里海の再評価と新たな価値創造、
高付加価値産業の展開を目指す

2. 急性期の取組（発災からの1年）

輪島サテライト



新しい展開；活動拠点・サテライトの整備

大学コンソーシアム石川能登分室



七尾サテライト



能登地域を中心とした県内のサテライト拠点

輪島市

- 輪島サテライト
(地域連携サテライトオフィス)
輪島市河井町15-1 (NTT輪島ビル内)

- 大学コンソーシアム石川能登分室
輪島市三井町新町10丁目1-1-1
(のどり山里海センターミニマルビル内)
※金沢大学が加盟する
「大学コンソーシアム石川」の拠点です

志賀町

- 志賀町教育研究拠点「志賀学舎」
志賀町吉山台1丁目1
(志賀町地域交流センター内)

加賀市

- 加賀サテライト
(地域連携サテライトオフィス)
加賀市大聖寺八幡町65
(加賀市イノベーションセンター内)

珠洲市

- 能登学舎
(地域連携サテライトオフィス)
珠洲市三郷町小泊33-7 (旧小泊小学校)

珠洲市

- 珠洲サテライト
珠洲市上戸町北方1-9-2 (すずき市民交流センター内)

能登町

- 理工学域能登海洋水産センター
能登町新坂1-1-4-1
- 現日本海域環境研究センター臨海実験施設
能登町小浜ムキ-1

七尾市

- 七尾サテライト
(地域連携サテライトオフィス)
七尾市和食町2部13-1 (和食道場お祭り会館内)

中能登町

- 中能登サテライト
中能登町白川17番17番地1 (能登テキスタイル・ラボ内)

2025.7.1時点

能登学舎



能登海洋水産センター



臨海実験施設



復旧から復興へ（現在から未来へ）

「のと未来創造学生プロジェクト」10プロジェクトを採択しました！

1. 被災地におけるボランティア活動 1件

- (1) 「能登ファン金大生を増やそう」プロジェクト / 人間社会学域地域創造学類 4年 沖野 葉

2. 地域住民を対象としたイベントの企画・実施 7件

- (1) 未来の能登の姿を想像しよう！まちづくりワークショップ / 融合学域先導学類 4年 吉田 みやび

- (2) 能登町の魅力再発見プロジェクト / 融合学域観光デザイン学類 4年 佐々木 心音

- (3) 医学展in能登 / 医薬保健学域医学類 5年 矢崎 雄也

- (4) のとの間 / 医薬保健学域医学類 3年 豊嶋 すみれ

- (5) みんなでつくる！音楽祭 in 能登 / 人間社会環境研究科地域創造学専攻M1 鈴木 淳之介

- (6) 服幸のとどけもの / 自然科学研究科フロンティア工学専攻M1 坂本 悠輔

- (7) Bloomie / 養護教諭特別別科 櫻井 咲希

3. 能登の産業振興に寄与する活動 2件

- (1) 能登旅～Travel To the Future～ / 融合学域先導学類 1年 片田 陽心

- (2) 祭礼衣装で明かりを灯す / 融合学域先導学類 1年 中川 優月

2-2. 地域の未来を創造する取組（学生編）



2025 医学展 in 能登

未来へ続く、能登の鼓動

医学展とは？

医療と、若者と、地域の皆様を繋ぐ交流の中'心'として、医療をより身近に感じてもらうプロジェクトです。医学展 in 能登を通して、地域が活気を取り戻し、復興の一助となることを目指します。

能登の子供たちに「楽しさ」と「学び」を
AED・BLS体験やからだの仕組み体験ブースなどでの体験を通して身体の不思議や医療の面白さを感じてもらいます。

被災地で頑張る受験生の不安や悩みに寄り添う
受験生応援ブースでは受験生と医学生が1対1の対面形式で受験相談や進路相談をします。

未来の医療人材育成へ
被災地で活動する中で、医学生が能登地域の現状と魅力に触れることで将来的にこの地の医療を支える人材育成にもつながります。

企画内容

- 能登応援ブース
- からだの仕組み体験
- 救急救命士体験
- 受験生応援ブース
- 緑日
- 看護体験

開催予定地



- 珠洲市
- 七尾市 (恵寿総合病院)

VRマグニチュード体験
✓血糖測定

能登の中高生の 学びたい！を応援

金沢大学生が学習サポート 無料自習室@珠洲がスタート！！

無料自習室(中高生対象)

勉強のことも将来のことも相談できる、自習室ができました！

学校でも家でもない、自分のペースで集中できる場所ができます！土曜を中心開放しているので、部活動のあとや休日の時間にぴったり。テスト勉強・受験勉強・日々の課題…どんな目的でも大歓迎。静かに勉強したい人も、ちょっと誰かに相談したい人も、気軽に来てください。

※開催日時
土曜・日曜
10-16時

大学生によるサポート

医学部生も多数在籍！みんなの「学びたい」を応援する大学生ボランティア

わからないところは大学生がやさしくサポートします。「勉強ってどうやって進めたらいいの？」、「進路のこと、少し不安…」実際に大学に通っている先輩たちが、勉強のコツや進路選び、大学生活のリアルまで教えてくれます。運営団体「石川・能登未来知団」は金沢大学医学類の学生が主体となって運営しています。

開催場所

能登SDGsラボ
〒927-1215
石川県珠洲市上戸町北方2-19-3
珠洲市産業センター2階



詳細情報

開催日時・詳細はLINEオープンチャットでお知らせします。
右下QRコードよりご参加ください。（生徒・保護者用）

- 実施場所：能登SDGsラボ相談窓口
〒927-1215 石川県珠洲市上戸町北方2-19-3 珠洲市産業センター2階
- 対象：中学生・高校生（学校・学年は問いません）
- 日時・時間：土曜・日曜の10時～16時 開催日はオープンチャットでお知らせ
- 利用料：無料（申し込み不要・出入り自由）
- 期間：2025年10月～2026年1月（プロジェクト試行期間）
- 主催団体：石川・能登未来知団 代表：豊嶋すみれ（金沢大学医学類3年生）



オープンチャット

2-2. 地域の未来を創造する取組（社会人編）



金沢大学能登学舎(旧 小泊小学校)

累計262名のマイスターを輩出
(2025.3月まで)

- ・地域課題を分析し、解決に貢献できる人材
- ・新たな事業（生業）を起こす核となる人材
- ・世界に共有可能な価値を発信できる人材



2024年度生修了式（2025.3.1 於：能登学舎）

地域社会への成果還元・発信

- ・「能登の里山里海学会」の実施
- ・能登アクションリサーチプログラム (ARP) の試行
- ・「地域と人を耕す会～能登半島活性 研究ネットワーク～」の定期開催



2-2. 地域の未来を創造する取組（社会人編）

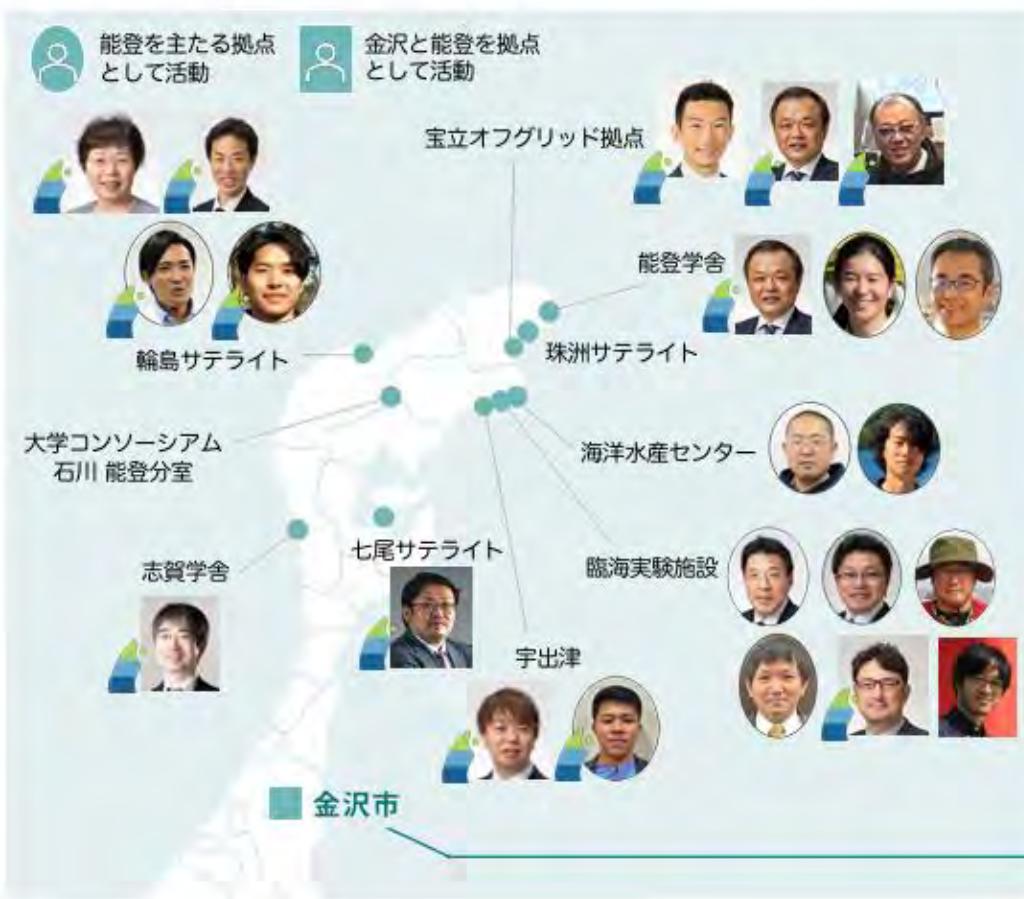
能登里山里海 SDGsマイスター プログラム



日程	講義内容・ワークショップテーマ	
6/7	入講式・入講式講演	ガイダンス 自己紹介 修了生の活動紹介
6/21	世界農業遺産・能登半島の里山里海 (国連大学サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーションユニット (NU-IAS OUE)と連携して開催)	ワークショップ:地域外のファンと生産者をつなぐ (ゲスト講師:株式会社南風太輔 高橋博之氏)
7/5	能登半島における地震や豪雨災害と 復興に向けた取り組み	里山里海体験実習・里地と里山 (近畿農園での研修等を予定)
7/19	ワークショップ:狼煙地区のまちづくり 地域活性化の取り組み	
8/2	バス研修+能登スタディツアー ワークショップ(1)	
8/23	バス研修+能登スタディツアー ワークショップ(2)	
9/6	生物多様性と生態系サービス 里山の危機と今後の保全	地産資材を活用した建築の 可能性・まちづくり
9/20	ワークショップ:復興と地域活性化に向けた新しいものづくり	
10/4	持続可能な社会の醸成 豊かさを測るしくみ	テーマ報告会 テーマ探求の検討・中間報告会
日程	講義内容・ワークショップテーマ	
10/18	ワークショップ:伝統・地産食材とその活用、持続的なビジネス展開を考える	
11/1	里山里海体験実習・里海	能登半島の景観の特徴とその変遷
11/29	ワークショップ:国際交流と観光～潜在型観光の可能性	
12/6	マイスター活動発表会 奥能登マルシェ・里山里海ワークショップ	
12/20	交流・活性化を生みだすアートの可能性	能登の地域性を活かせるまちづくりを考える
1/10	羅漢式塩田の伝統と特徴	ドキュメンタリー・アニメーションの可能性
1/24	ワークショップ:地域の若手と協力した特産品開発	
2/7	成果報告会リハーサル	
2/21	成果報告会	
3/7	終了式	

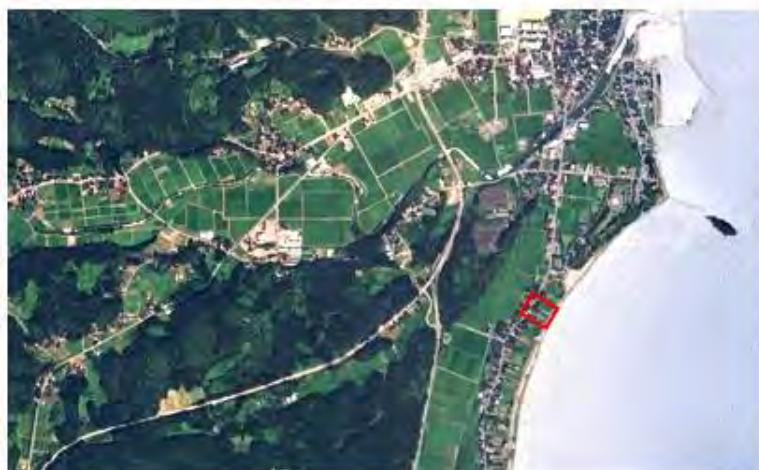
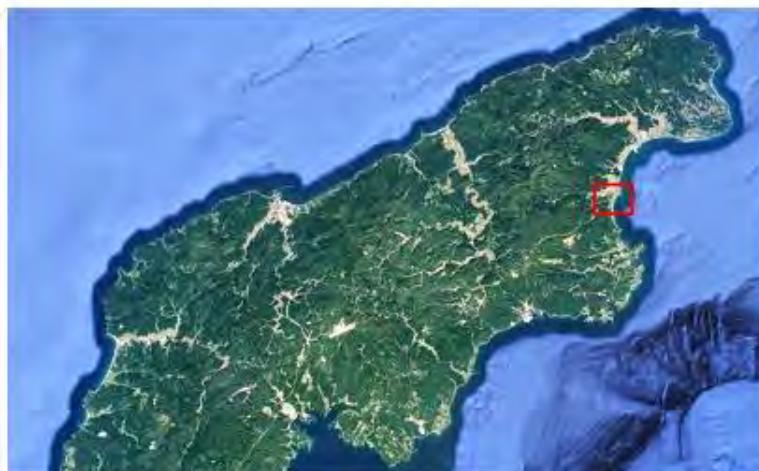
2-2. 地域の未来を創造する取組（研究者編）

能登の未来；日本の未来のために



2-2. 地域の未来を創造する取組（研究者編）

能登の未来；未来知 MITSUKE プロジェクト



日経 地方創生フォーラム in 金沢

2-2. 地域の未来を創造する取組（研究者編）

能登の未来；未来知 MITSUKE プロジェクト

配置計画



最先端の知の集積によるレジリエントなコミュニティ形成



**地域の未来を創造するための
大学への期待は？**